جامع أحكام التجويد

Jami' Ahkam at-Tajweed

シャーティビーヤ経路によるハフス・アン・アースィムのリワーヤにおける、高貴なクルアーンの読誦規則

インド・パキスタン版ムスハフ版

イマーム・イブン・アル＝ジャザリーの『アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤ』『アン＝ナシュル』『アッ＝タムヒード』、マッキー・イブン・アビー・ターリブの『アッ＝リアーヤ』、アル＝マルサフィーの『ヒダーヤト・アル＝カーリー』に基づく

編纂・編集：サイイド・アブドゥッサラーム（Syed Abdul Salam）

Online Quran · onlinequran.me

初版　ヒジュラ暦1448年／西暦2026年

目次

はじめに 5
本書の方法 5
典拠 5
用語について 6
色の案内 6

章1 タジュウィード学入門 8
1.1 タジュウィードの定義 8
1.2 対象・効用・法的位置づけ 8
1.3 ラフン（誤り）とその種類 9
1.4 読誦の速さ 9
1.5 キラーア、リワーヤ、タリーク 10
1.6 読誦の作法 10

章2 Isti'adhahとBasmalah 11
2.1 Isti'adhah 11
2.2 Basmalah 11
2.3 スーラ冒頭でのつなぎ方 11
2.4 二つのスーラの間のBasmalah 12
2.5 バラーア章（アッ＝タウバ） 12

章3 マハーリジュ：調音点 13
3.1 マフラジュとは何か、どう見つけるか 13
3.2 マハーリジュの数 13
3.3 十七のマハーリジュ 14
3.4 歯と舌の部位 15
3.5 注意点 16

章4 スィファート：文字の特性 17
4.1 定義と効用 17
4.2 反対のある特性 17
4.3 反対のない特性 18
4.4 各文字の特性の表 19
4.5 強いものと弱いもの 20

章5 文字を一つずつ 21
5.1 主な注意点を付した文字の表 21
5.2 軽い文字を軽く保つ 22
5.3 Ba、Jim、Qalqalahの文字 23
5.4 Ha'とSin 24
5.5 Sukun、Infitah、Shiddah 24
5.6 DadとDha' 25

章6 TafkhimとTarqiq：重い文字と軽い文字 27
6.1 定義 27
6.2 重さによる文字の分類 27
6.3 重さの段階 27
6.4 Alif 28
6.5 アッラーの御名のLam 28

章7 Ra'の規則 30

7.1 Ra'が重いとき 30
7.2 Ra'が軽いとき 31
7.3 両方が許される場合 31
7.4 Ra'の震え 31

章 8 無音のLamの規則 32
8.1 定冠詞のLam 32
8.2 動詞のLam 32
8.3 小辞のLam 33
8.4 命令のLamと名詞のLam 33

章 9 Nun SakinahとTanwinの規則 34
9.1 定義 34
9.2 Izhar Halqi 34
9.3 Idgham 35
9.4 Iqlab 36
9.5 Ikhfa' Haqiqi 37

章 10 Mim Sakinahの規則 39
10.1 Ikhfa' Shafawi 39
10.2 二つのMimのIdgham 39
10.3 Izhar Shafawi 40

章 11 重子音のNunとMim、そしてGhunnahの段階 41
11.1 Ghunnah 41
11.2 重子音のNunとMim 41
11.3 Ghunnahの段階 41

章 12 Mithlayn、Mutajanisayn、Mutaqaribayn 43
12.1 Mithlayn Saghir 43
12.2 Mutajanisayn Saghir 44
12.3 Mutaqaribayn Saghir 45
12.4 明瞭さが必要な箇所 45
12.5 ハフスにおけるkabir 45

章 13 Qalqalah 46
13.1 Qalqalahの段階 46

章 14 MaddとQasr：伸ばし 47
14.1 定義とマッドの文字 47
14.2 Madd Asli（Tabi'i） 47
14.3 Hamzahによるマッド 48
14.4 スクーンによるマッド 49
14.5 Madd al-Farq 50
14.6 マッドの強さ 50

章 15 Ha' al-Kinayah：代名詞のHa' 52
15.1 四つの状況 52
15.2 ハフスにおける例外 52

章 16 Hamzat al-WaslとHamzat al-Qat' 53
16.1 定義 53
16.2 現れる場所と読み始めの母音 53
16.3 二つの無音の文字の出会い 54

章 17 WaqfとIbtida'：止まることと始めること 55
17.1 停止の種類 55

17.2 選択による停止の四種類 56
17.3 開始 56
17.4 インド・パキスタン版ムスハフの停止記号 56

章 18 語末での止まり方 58
18.1 RawmとIshmamを用いない所 58
18.2 書記に従った停止 59

章 19 Maqtu'とMawsul：離して書く語とつなげて書く語 60

章 20 開いたTa：Taで書かれる女性形語尾 64

章 21 インド・パキスタン版ムスハフの記号 66

章 22 ハフスのリワーヤにおける特別な語 67

付録1：アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤの本文 69

付録2：用語集 75

付録3：参考文献 78

はじめに

すべての称賛はアッラーに属します。アッラーはそのしもべに啓典を下し、そこに何の歪みも置かれませんでした。クルアーンを整然と読誦するよう命じられた方に、その家族と教友たちに、そして最後の日まで正しい読誦によってアッラーの啓典を受け継いだすべての人々に、祝福と平安がありますように。

本書は*Tajweed*（التَّجْوِيد）の規則についての総合的な書です。その目的は、この学問のすべての規則を明確な学習順序でまとめることにあります。各項目は、イマーム・イブン・アル＝ジャザリーの本文から始まり、解説、色分けされたクルアーンの例、よくある誤りへの注意、そして最後に典拠が続きます。

本書の方法

- **リワーヤ：** 本書は*Ash-Shatibiyyah*（الشَّاطِبِيَّة）の経路による*Hafs 'an 'Asim*（حَفْص عَنْ عَاصِم）のリワーヤに従います。これはマディーナ版ムスハフと大多数の印刷されたクルアーンが書かれているリワーヤです。*Tayyibat an-Nashr*（طَيِّبَة النَّشْر）の経路に別の選択肢がある場合は、参考として述べるにとどめます。
- **典拠：** 本書の基盤はイマーム・イブン・アル＝ジャザリーの著作、すなわち*Al-Muqaddimah al-Jazariyyah*（المُقَدِّمَة الجَزَرِيَّة）、an-Nashr、at-Tamhidです。次に、文字とその特性の記述についてはマッキー・イブン・アビー・ターリブのar-Ri'ayah、詳細・例・学習順序についてはアル＝マルサフィーのHidayat al-Qariを用います。
- **クルアーン本文：** クルアーンの例はすべて、ファハド国王コンプレックスのインド・パキスタン版ムスハフのデジタル本文から自動的に取り出したもので、手入力したものはありません。コンプレックスのナスタアリーク体フォント（KFGQPC Nastaleeq）で組版しています。
- **参照：** Al-Muqaddimah al-Jazariyyahの詩句は、一般的な109句の数え方に従って番号が付けられています。その他の書物については、版によって異なるため、ページ番号ではなく、その主題が論じられている箇所を示しています。
- **見解の相違：** 学者の見解が分かれる場合は、各説を簡潔に示し、その後にシャーティビーヤの経路によるハフスで実践されている読み方を示します。

典拠

イマーム・イブン・アル＝ジャザリー（ヒジュラ暦751年から833年）

ダマスカス出身のシャーフィイー派の学者、シャムスッディーン・アブー・アル＝ハイル・ムハンマド・イブン・ムハンマド・イブン・ムハンマド・イブン・アリー・イブン・ユースフ・アル＝ジャザリーは、当代随一の読誦の師であり、キラーアート学における最後の大権威でした。ヒジュラ暦751年にダマスカスで生まれ、833年にシーラーズで没しました。この分野の著作には、Al-Muqaddimah al-Jazariyyahと

して知られる詩、学者としての初期に書かれたat-Tamhid fi 'Ilm at-Tajwid、大量伝承された読み方について最も広範かつ厳密に検証された著作であるan-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr、そしてその韻文版Tayyibat an-Nashrがあります。このため、彼の言葉が本書の基盤となっています。

マッキー・イブン・アビー・ターリブ・アル＝カイスィー（ヒジュラ暦355年から437年）

アブー・ムハンマド・マッキー・イブン・アビー・ターリブ・ハンムーシュ・アル＝カイスィーは、ヒジュラ暦355年にカイラワーンで生まれ、437年にコルドバで没しました。キラーアートとアラビア語の大家です。その著ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah wa Tahqiq Lafz at-Tilawahは、タジュウィードのみを扱った最初期の書の一つであり、文字を一つずつ記述し、その特性と名称を説明し、読誦者が各文字で犯す誤りを警告する点で最も詳細です。

シャイフ・アブドゥルファッターフ・アル＝マルサフィー（ヒジュラ暦1409年没）

エジプトのシャイフ・アブドゥルファッターフ・イブン・アッ＝サイイド・アジャミー・アル＝マルサフィーは、ヒジュラ暦14世紀のキラーアート学者です。その著Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bariは、ハフスのリワーヤによるタジュウィードの現代書として最も完備したものの一つで、学習順序、豊富な例、細かな点や特別な語の扱いで知られています。

用語について

この学問の専門用語は、学習者がそのままの形で覚えるべき固定された名称であるため、本書のすべての言語でアラビア語の形を保っています。本版では、各用語をラテン文字で書き、各章で初めて出るときにアラビア語の形を括弧内に示します。例：***Ghunnah*** (غُنَّة)。巻末に用語集があります。

色の案内

クルアーンの例では、規則が適用される文字だけに色が付けられ、語の残りの部分は黒のままです。それぞれの色は本書全体を通して一つの決まった意味を持ちます。

- Ghunnah：Ikhfa'、Iqlab、Idgham bi-Ghunnah、重子音のNunとMim
- Izhar：Halqi、Shafawi、Qamari
- 書かれているが発音されない文字、またはGhunnahなしで完全に同化する文字
- Qalqalah
- 2拍のMadd：Tabi'i、Badal、Silah Sughra、'Iwad
- 4拍または5拍のMadd：Muttasil、Munfasil、Silah Kubra
- 6拍のMadd Lazim
- 2・4・6拍のMadd：停止時の'Arid li-s-SukunとLin
- Tafkhim（重い）
- Tarqiq（軽い）
- 例で学ぶ文字
- 特別な場合：Sakt、Imalah、Tashil、Ishmam

色の使い方

مِنۢ بَعۡدِ

Al-Baqarah 2:27

Iqlab：NunがGhunnahを伴ってMimに変わる

سَوَآءٌ عَلَيۡهِمۡ

Al-Baqarah 2:6

Madd Muttasil

注意

本書は理解を助けるものであり、師から学ぶことの代わりにはなりません。タジュウィードは、学習者の読誦を聞いて正してくれる熟達した師から***Mushafahah*** (المُشَافَهَة)によって受け継ぐものです。教友たちが預言者ﷺから受け継いだのと同じようにです。

章 1

タジュウィード学入門

1.1 タジュウィードの定義

言語的には、タジュウィードとは改善すること、優れたものにすることを意味します。**術語としては、**各文字をその調音点から発音し、その文字に特性の権利（حقّ）とそれにふさわしいもの（مستحقّ）を与えることです。イマーム・イブン・アル＝ジャザリーは次のように定義しました。

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٣٠ وَهُوَ إِعْطَاءُ الْحُرُوفِ حَقَّهَا — مِنْ صِفَةٍ لَهَا وَمُسْتَحَقَّهَا

٣١ وَرَدُّ كُلِّ وَاحِدٍ لِأَصْلِهِ — وَاللَّفْظُ فِي نَظِيرِهِ كَمِثْلِهِ

٣٢ مُكَمِّلًا مِنْ غَيْرِ مَا تَكَلُّفِ — بِاللُّطْفِ فِي النُّطْقِ بِلَا تَعَسُّفِ

٣٣ وَلَيْسَ بَيْنَهُ وَبَيْنَ تَرْكِهِ — إِلَّا رِيَاضَةُ امْرِئٍ بِفَكِّهِ

文字の**権利**とは、***Jahr***（الجَهْر）、***Shiddah***（الشِّدَّة）、***Isti'la'***（الاسْتِعْلَاء）のように、決してその文字から離れない恒常的な特性のことです。**ふさわしいもの**とは、それらの特性や隣接する文字から生じるもので、***Tafkhim***（التَّفْخِيم）と***Tarqiq***（التَّرْقِيق）、***Izhar***（الإِظْهَار）、***Idgham***（الإِدْغَام）、***Ikhfa'***（الإِخْفَاء）、***Madd***（المَدّ）、***Qasr***（القَصْر）などです。「各文字をその本来の場所に戻す」とは調音点から発音することであり、「同類においても同じように発音する」とは、同じ文字にはどこでも同じ特性を与え、ある箇所では丁寧に、別の箇所ではぞんざいに読むことのないようにすることです。

イマームはさらに、これは無理や誇張をせず穏やかに行うべきであり、練習、すなわち熟達した師のもとでの繰り返しによってのみ身につくと説明しています。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 30 から 33; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: الكلام على حقيقة التجويد في مقدمة الكتاب; Ibn al-Jazari, *at-Tamhid fi 'Ilm at-Tajwid*: باب معنى التجويد; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: تعريف التجويد.

1.2 対象・効用・法的位置づけ

- **対象：** クルアーンの語。その文字に権利とふさわしいものを与えるという観点から。
- **効用：** アッラーの啓典において舌を誤りから守り、啓示されたとおりに読誦すること。
- **創始者：** 実践面では、ジブリールから受けて教友たちに教えた預言者ﷺ。書かれた学問としては読誦と言語の大家たちで、最初期に独立して著したのは、ラーの韻を踏む詩を著したアブー・ムザーヒム・アル＝ハーカーニー（ヒジュラ暦325年没）であり、その後*ar-Ri'ayah*のマッキーが続きます。

法的位置づけ： 規則を理論として学ぶことは共同体の義務であり、読誦の際にそれを適用することはクルアーンを読むすべての人の義務です。イマーム・イブン・アル＝ジャザリーは言います。

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٢٧ وَالْأَخْذُ بِالتَّجْوِيدِ حَتْمٌ لَازِمُ مَنْ لَمْ يُجَوِّدِ الْقُرَانَ آثِمُ

٢٨ لِأَنَّهُ بِهِ الْإِلٰهُ أَنْزَلَا وَهٰكَذَا مِنْهُ إِلَيْنَا وَصَلَا

٢٩ وَهُوَ أَيْضًا حِلْيَةُ التِّلَاوَةِ وَزِينَةُ الْأَدَاءِ وَالْقِرَاءَةِ

その根拠は﴿وَرَتِّلِ الْقُرْاٰنَ تَرْتِيْلًا ۝٤﴾ (Al-Muzzammil 73:4)の節です。イブン・アル＝ジャザリーは*an-Nashr*の中で、アリー（アッラーが彼を嘉されますように）から、***Tartil***(التَّرْتِيل)とは「文字のタジュウィードと停止箇所の知識」であると伝えています。詩のこの句には「タジュウィードをもってクルアーンを読まない者」と「クルアーンを正しく読まない者」という二つの読み方があり、いずれも正しい発音をおろそかにすることは罪であることを意味します。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 27 から 29; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب في معرفة حكم التجويد وأدلته; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: حكم التجويد.

1.3 ラフン（誤り）とその種類

Lahn(اللَّحْن)とは、読誦における誤り、正しさからの逸脱です。二種類あります。

種類	定義	例	法的位置づけ
Lahn Jali(اللَّحْن الجَلِيّ)	語を損なう明白な誤りで、読誦者もそれ以外の人も気づき、意味を変えることもあります。	文字や母音を別のものに替えること、母音のある文字にスクーンを付けたり、無音の文字に母音を付けたりすることで、﴿اَنْعَمْتَ﴾ (Al-Fatihah 1:7)のター（Ta）をダンマで読むような場合です。	合意によって禁じられています。
Lahn Khafi(اللَّحْن الخَفِيّ)	意味ではなくタジュウィードを損なう誤りで、熟達した読誦者だけが気づきます。	GhunnahやIkhfa'を省くこと、必須のMaddを短くすること、軽い文字を重くすること。	読誦の大家たちによれば、学ぶことのできる者には許されません。好ましくないとする学者もいます。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: الكلام على اللحن; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: اللحن وأقسامه.

1.4 読誦の速さ

読誦にはいくつかの速さがあり、タジュウィードの規則が守られていれば、いずれも許されます。

速さ	説明
Tahqiq (التَّحْقِيق)	最も遅い読み方で、Maddを十分に伸ばし母音を完全に発音します。教授に適しています。
Tartil	落ち着いて熟考しながらの丁寧な読誦で、最良の速さです。Tahqiqと同じとみなす学者もいます。
Tadwir (التَّدْوِير)	TahqiqとHadrの中間の速さ。
Hadr (الحَدْر)	規則を守りながらの速い読誦で、主に復習に用いられます。

> **よくある誤り**
> 文字や母音を落としたり、必須のMaddを短くしたりする速さは*Hadr*ではなく誤りです。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: مراتب القراءة; Ibn al-Jazari, *at-Tamhid fi 'Ilm at-Tajwid*: باب مراتب القراءة; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: مراتب القراءة.

1.5 キラーア、リワーヤ、タリーク

十人のイマームの一人に帰される読み方を***Qira'ah*** (القِرَاءَة)といい、たとえばアースィムの読み方です。その伝承者に帰されるものを***Riwayah*** (الرِّوَايَة)といい、アースィムからのハフスがその例です。伝承者より後の人々に帰されるものを***Tariq*** (الطَّرِيق)といい、イマーム・アル＝カースィム・イブン・フィッルフ・アッ＝シャーティビー（ヒジュラ暦590年没）の詩Hirz al-Amaniによるシャーティビーヤの経路がその例です。イブン・アル＝ジャザリーによれば、読み方が真正であるための条件は三つです。何らかの正当な仕方でアラビア語に合致すること、ウスマーン写本のいずれかの字形に可能性としてでも合致すること、そして真正な伝承経路を持つことです。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: أركان القراءة الصحيحة في مقدمة الكتاب; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: القراءة والرواية والطريق.

1.6 読誦の作法

- アッラーに対する誠実さ、清浄な状態で清潔な場所において読誦すること。
- 初めに庇護を求めること、そしてスーラの冒頭でバスマラを唱えること（次章参照）。
- 熟考と謙虚さ、そして無理なく声を美しくすること。ハディース「あなたがたの声でクルアーンを飾りなさい」（アブー・ダーウード、ナサーイー）のとおりです。
- 学びにおける忍耐。預言者ﷺは言われました。「クルアーンに熟達した者は高貴で敬虔な書記たちと共にあり、つかえながら苦労して読む者には二倍の報奨がある」（ブハーリーとムスリム）。

章 2

Isti'adhahとBasmalah

2.1 Isti'adhah

Isti'adhah（الاسْتِعَاذَة）とは、読誦の前にأعوذ بالله من الشيطان الرجيم（「呪われた悪魔からアッラーに庇護を求めます」）と唱えることです。この文言はクルアーンの言葉に合致するため、読誦者たちに好まれています：﴿فَإِذَا قَرَأْتَ الْقُرْآنَ فَاسْتَعِذْ بِاللَّهِ مِنَ الشَّيْطَانِ الرَّجِيمِ ﴿٩٨﴾﴾ (An-Nahl 16:98)。大多数の学者は読誦の初めにこれを推奨されるものとし、義務とする学者もいます。

声に出すか、静かに唱えるか

読誦が声に出したもので聞いている人がいる場合は、聞き手が最初から注意を向けるよう声に出して唱えます。静かに読誦するとき、一人のとき、礼拝中、あるいは順番に読誦する集まりで自分が最初の読み手でないときは、静かに唱えます。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الاستعاذة; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: الاستعاذة.

2.2 Basmalah

Basmalah（البَسْمَلَة）とはبسم الله الرحمن الرحيمと唱えることです。ハフスは、バラーア（アッ＝タウバ）を除くすべてのスーラの冒頭でこれを唱えます。スーラから読み始める場合も、前のスーラとつなげる場合も同様です。スーラの途中から始める場合は、唱えても省いてもよく、多くの読誦の大家は唱えることを好みます。

2.3 スーラ冒頭でのつなぎ方

スーラの冒頭から読み始める場合、Isti'adhah、Basmalah、スーラの冒頭について四つの方法が許されます。

方法	やり方
Qat' al-jami'	Isti'adhahの後で止まり、Basmalahの後で止まり、それからスーラを始める。
一つ目の後で止まり、二つ目を三つ目につなげる	Isti'adhahの後で止まり、それからBasmalahをスーラにつなげる。
一つ目を二つ目につなげ、三つ目の前で止まる	Isti'adhahをBasmalahにつなげて止まり、それからスーラを始める。
Wasl al-jami'	三つすべてを一息でつなげる。

2.4 二つのスーラの間のBasmalah

スーラの終わりを次のスーラの初めにつなげる場合、三つの方法が許され、四つ目は許されません。

方法	やり方	法的位置づけ
Qat' al-jami'	スーラの終わりで止まり、Basmalahの後で止まり、それから始める。	許される
一つ目の後で止まり、二つ目を三つ目につなげる	スーラの終わりで止まり、それからBasmalahを次のスーラにつなげる。	許される
Wasl al-jami'	スーラの終わり、Basmalah、次のスーラをつなげる。	許される
一つ目を二つ目につなげ、三つ目の前で止まる	スーラの終わりをBasmalahにつなげ、そこで止まる。	Basmalahが前のスーラの終わりに属するかのような印象を与えるため、許されません。

2.5 バラーア章（アッ＝タウバ）

バラーアの冒頭にはBasmalahがありません。ここから読み始める場合はIsti'adhahだけを唱え、止まるか冒頭につなげます：﴿بَرَآءَةٌ مِّنَ اللّٰهِ وَرَسُوْلِهٖٓ﴾ (At-Tawbah 9:1)。アル＝アンファールの終わりにつなげる場合、Basmalahなしで三つの方法があります。息継ぎをして止まる、息継ぎなしの***Sakt***(السَّكْت)、そして***Wasl***(الوَصْل)です。この章の途中から始める場合、Basmalahについては読誦の大家たちの見解が分かれます。

> **注意**
> スーラの途中から、悪魔に言及する節やアッラーの御名につなげるのがふさわしくない内容の節で始める場合は、Basmalahの後で止まるのがよいでしょう。﴿اَلشَّيْطٰنُ يَعِدُكُمُ الْفَقْرَ﴾ (Al-Baqarah 2:268)がその例です。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب البسملة; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: البسملة وأوجهها بين السورتين.

章 3

マハーリジュ：調音点

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٩ مَخَارِجُ الْحُرُوفِ سَبْعَةَ عَشَرْ عَلَى الَّذِي يَخْتَارُهُ مَنِ اخْتَبَرْ

١٠ فَأَلِفُ الْجَوْفِ وَأُخْتَاهَا وَهِي حُرُوفُ مَدٍّ لِلْهَوَاءِ تَنْتَهِي

١١ ثُمَّ لِأَقْصَى الْحَلْقِ هَمْزٌ هَاءُ ثُمَّ لِوَسْطِهِ فَعَيْنٌ حَاءُ

١٢ أَدْنَاهُ غَيْنٌ خَاؤُهَا وَالْقَافُ أَقْصَى اللِّسَانِ فَوْقُ ثُمَّ الْكَافُ

١٣ أَسْفَلُ وَالْوَسْطُ جِيمُ الشِّينُ يَا وَالضَّادُ مِنْ حَافَتِهِ إِذْ وَلِيَا

١٤ الَاضْرَاسَ مِنْ أَيْسَرَ أَوْ يُمْنَاهَا وَاللَّامُ أَدْنَاهَا لِمُنْتَهَاهَا

١٥ وَالنُّونُ مِنْ طَرَفِهِ تَحْتُ اجْعَلُوا وَالرَّا يُدَانِيهِ لِظَهْرٍ أَدْخَلُ

١٦ وَالطَّاءُ وَالدَّالُ وَتَا مِنْهُ وَمِنْ عُلْيَا الثَّنَايَا وَالصَّفِيرُ مُسْتَكِنْ

١٧ مِنْهُ وَمِنْ فَوْقِ الثَّنَايَا السُّفْلَى وَالظَّاءُ وَالذَّالُ وَثَا لِلْعُلْيَا

١٨ مِنْ طَرَفَيْهِمَا وَمِنْ بَطْنِ الشَّفَهْ فَالْفَا مَعَ اطْرَافِ الثَّنَايَا الْمُشْرِفَهْ

١٩ لِلشَّفَتَيْنِ الْوَاوُ بَاءٌ مِيمُ وَغُنَّةٌ مَخْرَجُهَا الْخَيْشُومُ

3.1 マフラジュとは何か、どう見つけるか

Makhraj (المَخْرَج)とは、文字の音が止まる場所であり、それによってその文字固有の音が定まります。見つけるには、文字を無音または重子音にし、その前に母音付きのハムザを置いて発音し、音がどこで止まるかに注意します。そこがその文字のマフラジュです。例：أَبْ، أَتْ، أَقْ。

マフラジュには、喉・舌・唇の特定の部分に依拠する**確定的なもの**（muhaqqaq）と、特定の部分に依拠しない**推定的なもの**（muqaddar）があります。前者は大部分の文字のもので、後者は***Huruf al-Madd*** (حُرُوف المَدّ)のものです。これらは息が尽きるときにはじめて終わるからで、イマームが「息とともに終わるマッドの文字」と言うとおりです。

3.2 マハーリジュの数

イブン・アル＝ジャザリーと大多数の学者が選んだ見解では、マハーリジュは**十七**あり、これはアル＝ハリール・イブン・アフマドの見解です。スィーバワイフとその追随者たち、たとえばシャーティビーは

Jawf(الجَوْف)を除いてその文字を喉・舌の中央・唇に振り分け、**十六**と数えました。アル＝ファッラーは、ラーム・ヌーン・ラーに一つのマフラジュを与えて**十四**と数えました。いずれも五つの大きな領域に収まります：*Jawf*、***Halq***(الحَلْق)、***Lisan***(اللِّسَان)、***Shafatan***(الشَّفَتَان)、***Khayshum***(الخَيْشُوم)。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 9 から 19; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب مخارج الحروف; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب مخارج الحروف; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: مخارج الحروف.

3.3 十七のマハーリジュ

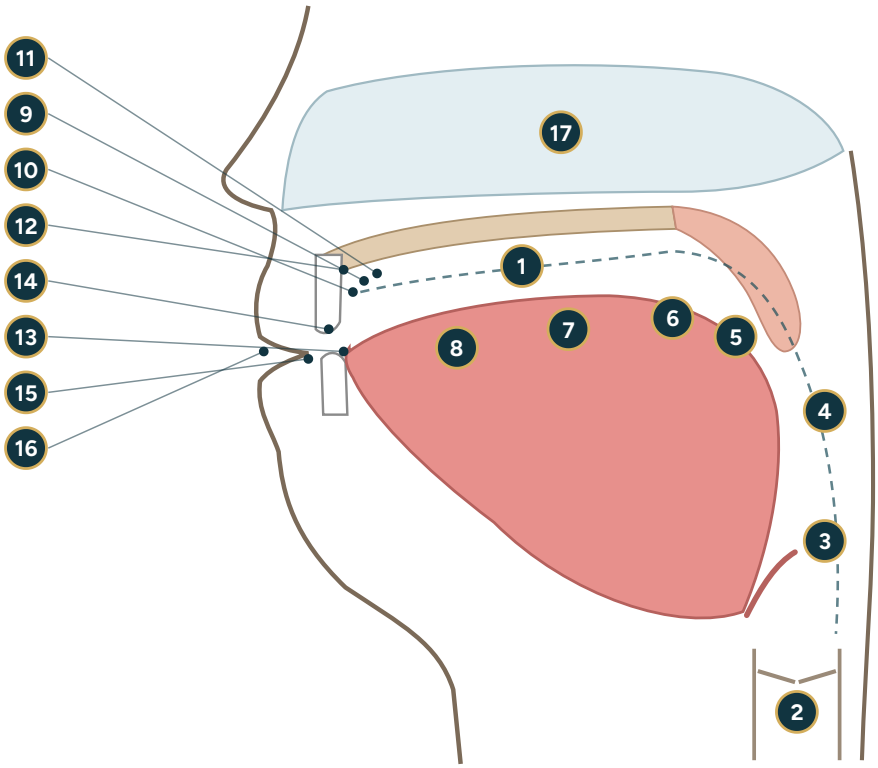


図1：口・喉・鼻のおおよその側面図。数字は表の調音点の番号です。

#	領域	正確な位置	文字
1	Jawf	喉と口の内部の空間	ا و ي (المدية)
2	Halq	喉の最も奥、胸に最も近い部分	ء ه
3	Halq	喉の中央	ع ح
4	Halq	喉の最も手前、口に近い部分	غ خ
5	Lisan	舌の奥と、その上の軟口蓋	ق
6	Lisan	舌の奥、カーフ（Qaf）よりやや前、口蓋とともに	ك
7	Lisan	舌の中央と、その上の硬口蓋	ج ش ي

#	領域	正確な位置	文字
8	Lisan	舌の片側または両側の縁と上の臼歯。左側の方が容易で一般的	ض
9	Lisan	両側の縁の前部から舌先まで、上の歯の歯茎に対して	ل
10	Lisan	舌先と上の前歯の歯茎、ラームよりやや下	ن
11	Lisan	舌先と舌の表面の一部を上の歯茎に、ヌーンよりやや奥	ر
12	Lisan	舌先と上の前歯の付け根	ط د ت
13	Lisan	舌先を下の前歯のすぐ上に、わずかな隙間を残して	ص ز س
14	Lisan	舌先と上の前歯の先端	ظ ذ ث
15	Shafatan	下唇の内側と上の前歯の先端	ف
16	Shafatan	両唇：バーとミームでは閉じ、ワーウでは丸めて開く	و ب م
17	Khayshum	鼻の内側の奥	الغنة

アル＝ファーティハからの例

مٰلِكِ

Al-Fatihah 1:4
アリフ、Jawfから（1）

اَلْحَمْدُ

Al-Fatihah 1:2
喉の中央からのハー（Ha'）（3）

غَيْرِ الْمَغْضُوْبِ

Al-Fatihah 1:7
喉の手前からのガイン（4）、舌の縁からのダード（8）

الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيْمَ

Al-Fatihah 1:6
舌先からのサード（13）、舌の奥からのカーフ（5）

نَعْبُدُ وَاِيَّاكَ نَسْتَعِيْنُ

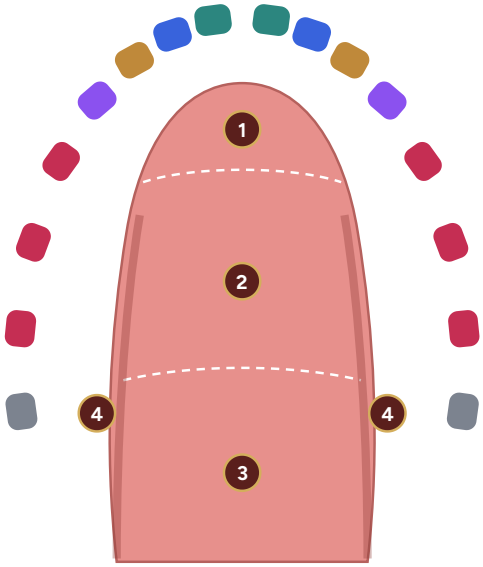
Al-Fatihah 1:5
喉の中央からのアイン（3）、Jawfからのマッドのヤー（1）

الَّذِيْنَ اَنْعَمْتَ

Al-Fatihah 1:7
歯の先端からのザール（14）、その付け根からのター（Ta）（12）

3.4 歯と舌の部位

マハーリジュは歯と舌の部位で説明されるため、学習者はそれらの名称を知る必要があります。歯はふつう三十二本で、上下それぞれに中切歯二本、側切歯二本、犬歯二本、小臼歯二本、臼歯六本、親知らず二本があります。



- Thanaya（4）：中切歯
- Ruba'iyyat（4）：側切歯
- Anyab（4）：犬歯
- Dawahik（4）：第一小臼歯
- Tawahin（12）：臼歯
- Nawajidh（4）：親知らず

1. 舌先：ヌーン、ラー。ター（Ta'）、ダール、ター（Ta）。サード、ザーイ、スィーン。ザー（Dha'）、ザール、サー（Tha）
2. 舌の中央：ジーム、シーン、マッドの文字ではないヤー
3. 舌の奥：カーフ（Qaf）、次にカーフ（Kaf）
4. 舌の両縁：上の臼歯に対するダードと、その前部からのラーム

図2：上から見た上の歯と舌。かっこ内の数は上下両方のあごの歯の数です。

3.5 注意点

- **ダードとザー（Dha'）：** 最も混同されやすい文字です。ダードは舌の縁と上の臼歯から*Istitalah*(الاِسْتِطَالَة)を伴って出ます。ザー（Dha'）は舌先と上の前歯の先端から出ます。ダードをザーや重いダールのように発音してはいけません。
- **ハムザとハー（Ha'）：** 最も遠い点から出るため、完全に発音するよう注意してください。特に無音のハーと語末のハーに気をつけましょう。
- **'AynとHa'：** 多くの非アラブ人がするように、'AynをHamzahに、Ha'を軽いHa'に変えないよう注意してください。
- **Tha、Dhal、Dha'：** 舌先をわずかに出して前歯の先端に触れさせなければなりません。SinやZayのように発音してはいけません。

> **補足**
>
> Alifの前には常にファトハ、マッドのWawの前にはダンマ、マッドのYaの前にはカスラがあります。ファトハの後でWawやYaが無音のとき、それは*Lin*(اللِّين)の文字であり、Jawfからは出ません。Wawは唇から、Yaは舌の中央から出ます。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب مخارج الحروف; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب مخارج الحروف وذكر الأسنان; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: مخارج الحروف وأسماء الأسنان.

章 4

スィファート：文字の特性

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٢٠ صِفَاتُهَا جَهْرٌ وَرِخْوٌ مُسْتَفِلْ مُنْفَتِحٌ مُصْمَتَةٌ وَالضِّدَّ قُلْ

٢١ مَهْمُوسُهَا فَحَثَّهُ شَخْصٌ سَكَتْ شَدِيدُهَا لَفْظُ أَجِدْ قَطٍ بَكَتْ

٢٢ وَبَيْنَ رِخْوٍ وَالشَّدِيدِ لِنْ عُمَرْ وَسَبْعُ عُلْوٍ خُصَّ ضَغْطٍ قِظْ حَصَرْ

٢٣ وَصَادُ ضَادٌ طَاءُ ظَاءٌ مُطْبَقَهْ وَفِرَّ مِنْ لُبِّ الْحُرُوفُ الْمُذْلَقَهْ

٢٤ صَفِيرُهَا صَادٌ وَزَايٌ سِينُ قَلْقَلَةٌ قُطْبُ جَدٍ وَاللِّينُ

٢٥ وَاوٌ وَيَاءٌ سُكِّنَا وَانْفَتَحَا قَبْلَهُمَا وَالِانْحِرَافُ صُحِّحَا

٢٦ فِي اللَّامِ وَالرَّا وَبِتَكْرِيرٍ جُعِلْ وَلِلتَّفَشِّي الشِّينُ ضَادًا اسْتَطِلْ

4.1 定義と効用

Sifah (الصِّفَة)とは、文字がそのマフラジュで生まれるときのあり方です。息が流れるか止まるか、音が流れるか止まるか、舌が上がるか下にとどまるか、などです。マフラジュは文字がどこで生まれるかを、スィファは文字がどのように生まれるかを決めます。

- **第一の効用：** 同じマフラジュを持つ文字を区別すること。スィファートがなければ、Ta'、Dal、Taは一つの音になってしまいます。
- **第二：** 異なるマハーリジュの文字の発音を良くすること。
- **第三：** 強い文字と弱い文字を知り、どこで同化が許され、どこで許されないかを知ること。

スィファートには二種類あります。文字から決して離れず本章の主題である***Sifat Lazimah*** (الصِّفَات اللَّازِمَة)と、ある状況では現れ別の状況では現れない***Sifat 'Aridah*** (الصِّفَات العَارِضَة)です。後者にはTafkhimとTarqiq、Izhar、Idgham、Iqlab、Ikhfa'、Madd、Qasrなどがあります。イブン・アル＝ジャザリーは恒常的な特性を十七と数え、マッキーは*ar-Ri'ayah*でさらに多くの特性と名称を挙げました。特性には、反対のあるものとないものの二つの型があります。

4.2 反対のある特性

特性	定義	文字
Hams (الهَمْس)	マフラジュへの圧力が弱いため、文字を発音するときに息が流れる	فَحَثَّهُ شَخْصٌ سَكَتْ (10)

特性	定義	文字
Jahr (الجَهْر)	マフラジュへの圧力が強いため、息が止まる	その他すべて（18）
Shiddah (الشِّدَّة)	マフラジュへの圧力が完全なため、音が止まる	أَجِدْ قَطٍ بَكَتْ (8)
Tawassut (التَّوَسُّط)	ShiddahとRakhawahの中間の音	لِنْ عُمَرْ (5)
Rakhawah (الرَّخَاوَة)	圧力が弱いため、音が流れる	残り（15）
Isti'la' (الاسْتِعْلَاء)	舌の奥が口蓋に向かって上がる	خُصَّ ضَغْطٍ قِظْ (7)
Istifal (الاسْتِفَال)	舌が下にとどまり、口蓋から離れている	残り（21）
Itbaq (الإِطْبَاق)	舌の一部が口蓋に押し当てられ、音がその間に閉じ込められる	ص ض ط ظ (4)
Infitah (الانْفِتَاح)	舌が口蓋から離れ、その間を空気が通る	残り（24）
Idhlaq (الإِذْلَاق)	舌先または唇から出る、軽く速い文字	فِرَّ مِنْ لُبِّ (6)
Ismat (الإِصْمَات)	字義は「引き止めること」。術語としては重さ（Tafkhimではない）：4つまたは5つの語根文字をもつアラビア語の単語は、これらの文字だけでは作られません	残り（22）

補足

表の数はマッドのAlifを除く28文字に基づいています。Alifも数える場合は、Jahr、Rakhawah、Istifal、Infitah、Ismatにそれぞれ1を加え、19、16、22、25、23となります。

4.3 反対のない特性

特性	定義	文字
Safir (الصَّفِير)	鳥のさえずりのような鋭い付加音	ص ز س
Qalqalah (القَلْقَلَة)	文字が無音のときにマフラジュが振動し、はっきりした反響が生じる	قُطْبُ جَدٍ
Lin (اللِّين)	文字が無理なく容易に出る	ファトハの後の無音のWawとYa
Inhiraf (الانْحِرَاف)	文字がマフラジュを離れた後、別の方へ傾く	ر ل
Takrir (التَّكْرِير)	Ra'で舌先が震えること。避けるために学ぶ	ر

特性	定義	文字
Tafashshi (التَّفَشِّي)	空気が口の中に広がる	ش
Istitalah (الاسْتِطَالَة)	音が舌の縁に沿って前から後ろへ伸びる	ض

アル＝マルサフィーなど一部の学者は、NunとMimに***Ghunnah***(الغُنَّة)を、マッドの文字とHa'に***Khafa'***(الخَفَاء)（隠れ）を加えています。

例

كُوِّرَتْ

At-Takwir 81:1
無音のTaのHams：息が流れる

قَدْ اَفْلَحَ

Al-Mu'minun 23:1
DalのJahr、Shiddah、Qalqalah

الصِّرَاطَ

Al-Fatihah 1:6
SadとTa'のItbaqとIsti'la'

اَللّٰهُ الصَّمَدُ ۝٢

Al-Ikhlas 112:2
SadのSafir

كُلِّ شَيْءٍ قَدِيْرٌ

Al-Baqarah 2:20
ShinのTafashshi

وَلَا الضَّآلِّيْنَ

Al-Fatihah 1:7
DadのIstitalah

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 20 から 26; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب صفات الحروف; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: ذكر ألقاب الحروف وصفاتها; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: صفات الحروف.

4.4 各文字の特性の表

最初の五列は、各組から一つの特性を示します。(1) HamsまたはJahr、(2) Shiddah、TawassutまたはRakhawah、(3) Isti'la'またはIstifal、(4) ItbaqまたはInfitah、(5) IdhlaqまたはIsmat。どの文字にも少なくとも五つ、多くて七つの特性があります。

文字	1	2	3	4	5	その他
ء	Jahr	Shiddah	Istifal	Infitah	Ismat	·
ب	Jahr	Shiddah	Istifal	Infitah	Idhlaq	Qalqalah
ت	Hams	Shiddah	Istifal	Infitah	Ismat	·
ث	Hams	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	·
ج	Jahr	Shiddah	Istifal	Infitah	Ismat	Qalqalah
ح	Hams	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	·
خ	Hams	Rakhawah	Isti'la'	Infitah	Ismat	·
د	Jahr	Shiddah	Istifal	Infitah	Ismat	Qalqalah

文字	1	2	3	4	5	その他
ذ	Jahr	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	·
ر	Jahr	Tawassut	Istifal	Infitah	Idhlaq	Inhiraf, Takrir
ز	Jahr	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	Safir
س	Hams	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	Safir
ش	Hams	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	Tafashshi
ص	Hams	Rakhawah	Isti'la'	Itbaq	Ismat	Safir
ض	Jahr	Rakhawah	Isti'la'	Itbaq	Ismat	Istitalah
ط	Jahr	Shiddah	Isti'la'	Itbaq	Ismat	Qalqalah
ظ	Jahr	Rakhawah	Isti'la'	Itbaq	Ismat	·
ع	Jahr	Tawassut	Istifal	Infitah	Ismat	·
غ	Jahr	Rakhawah	Isti'la'	Infitah	Ismat	·
ف	Hams	Rakhawah	Istifal	Infitah	Idhlaq	·
ق	Jahr	Shiddah	Isti'la'	Infitah	Ismat	Qalqalah
ك	Hams	Shiddah	Istifal	Infitah	Ismat	·
ل	Jahr	Tawassut	Istifal	Infitah	Idhlaq	Inhiraf
م	Jahr	Tawassut	Istifal	Infitah	Idhlaq	Ghunnah
ن	Jahr	Tawassut	Istifal	Infitah	Idhlaq	Ghunnah
ه	Hams	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	·
و	Jahr	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	Lin
ي	Jahr	Rakhawah	Istifal	Infitah	Ismat	Lin

この表のLinは、ファトハの後で無音になっているWawとYaだけに当てはまります。

4.5 強いものと弱いもの

強い特性：Jahr、Shiddah、Isti'la'、Itbaq、Safir、Qalqalah、Inhiraf、Takrir、Tafashshi、Istitalah、Ghunnah。弱い特性：Hams、Rakhawah、Istifal、Infitah、Lin、Khafa'。アル＝マルサフィーらによれば、Tawassut、Idhlaq、Ismatは強いとも弱いともされません。文字の強弱は、強い特性をいくつ兼ね備えているかで決まり、最も強い文字はTa'、最も弱い文字はHa'です。

> **補足**
> 特性は同じマフラジュの文字を区別します。Ta'、Dal、Taは同じ場所から出ますが、Isti'la'とItbaqを持つのはTa'だけ、Hamsを持つのはTaだけで、DalはItbaqなしのJahrとShiddahを持ちます。Sad、Zay、Sin、そしてDha'、Dhal、Thaも同様です。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب صفات الحروف; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب ذكر الحروف القوية والضعيفة; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: تقسيم الصفات إلى قوية وضعيفة.

章 5

文字を一つずつ

マハーリジュとスィファートの後、読誦者は各文字を個別に知る必要があります。そのマフラジュ、主な特性、発音で起こる誤りです。これは各文字に一章を設けたイマーム・マッキーの*ar-Ri'ayah*の方法です。イマーム・イブン・アル＝ジャザリーもムカッディマで、誤りの多い文字と語について注意を促しました。

5.1 主な注意点を付した文字の表

文字	マフラジュ番号	要点
ا	1	重さ・軽さは前の文字に従う。軽い文字の後では決して重くならない。
ء	2	圧力をかけず穏やかに発音する。無音のときは明瞭に。伝承のある所でのみ軽くする。
ه	2	最も弱く隠れた文字。語中と語末で明瞭に、特に繰り返しや無音のとき。
ع	3	Hamzahにしてはならない。無音のときはTawassutで明瞭に、緊張させない。
ح	3	軽いHa'やKha'にしてはならない。'AynやHa'の隣では明瞭に。
غ	4	誇張せずに重く。Qafにしてはならない。
خ	4	QafやGhaynの方へ誇張せずに重く。
ق	5	Shiddah、Jahr、Isti'la'。KafやGhaynにしてはならない。無音のときはQalqalah。
ك	6	HamsとShiddahを明瞭に、特に繰り返すとき。
ج	7	張りがあり有声。Shinのように柔らかくしてはならない。無音のときはQalqalah。
ش	7	Tafashshiを明瞭に、特に無音や重子音のとき。
ي	7	マッドの文字でないときは舌の中央から。単独のYaを重ねてはならない。
ض	8	舌の縁から*Istitalah*（الاستطالة）を伴って。Dha'や重いDalにしてはならない。
ل	9	軽い。ただしファトハかダンマの後のアッラーの御名では重い。スクーンを完全に保つ。
ن	10	本来のGhunnahを持ち、重子音・隠蔽・同化のときに十分に現れる。

文字	マフラジュ番号	要点
ر	11	震えを隠す、特に重子音のとき。重さと軽さの規則がある。
ط	12	最も強い文字。無音のときはQalqalah。Taに同化してもItbaqは残る。
د	12	無音のときはQalqalah。決して重くしない。
ت	12	Hamsを明瞭に。Ta'のように重くしてはならない。
ص	13	Itbaq、Isti'la'、Safir。Sinにしてはならない。
ز	13	有声でSafirを持つ。Sinにしてはならない。
س	13	無声でSafirを持つ。重い文字の前でSadにしてはならない。
ظ	14	舌先を歯に当て、Itbaqを伴う。重いZayにしてはならない。
ذ	14	ZayやDalにしてはならない。
ث	14	SinやTaにしてはならない。
ف	15	軽く無声。重い文字の隣でも重くしない。
و	16	唇を丸める。マッドのWawは伸ばし、重ねず、後続のWawに同化させない。
ب	16	張りがあり有声。決して重くしない。無音のときはQalqalah。
م	16	唇を閉じる。重い文字の前でも軽く。重子音のときはGhunnahが現れる。

典拠: Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: أبواب الحروف حرفًا حرفًا; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: الكلام على كل حرف وما يجب له.

5.2 軽い文字を軽く保つ

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٣٤ فَرَقِّقَنْ مُسْتَفِلًا مِنْ أَحْرُفِ — وَحَاذِرَنْ تَفْخِيمَ لَفْظِ الْأَلِفِ

٣٥ وَهَمْزَ الْحَمْدُ أَعُوذُ اهْدِنَا — اللَّهُ ثُمَّ لَامَ لِلَّهِ لَنَا

٣٦ وَلْيَتَلَطَّفْ وَعَلَى اللَّهِ وَلَا الضْ — وَالْمِيمَ مِنْ مُخْمَصَةٍ وَمِنْ مَرَضْ

詩人は*Istifal*(الاسْتِفَال)のすべての文字を軽く保つよう命じ、誤りの多いものを挙げています。**Alif**は軽い文字の後で決して重くならない。語頭の**Hamzah**。アッラーの御名や重い文字の隣の**Lam**。重い文字の

隣の**Mim**です。

اَلْحَمْدُ Al-Fatihah 1:2 始めのHamzahは軽い	اِهْدِنَا Al-Fatihah 1:6 軽いHamzah	وَلْيَتَلَطَّفْ Al-Kahf 18:19 LamはTa'の前でも軽いまま
وَلَا الضَّآلِّيْنَ Al-Fatihah 1:7 wa-laのLamはDadの前でも軽いまま	فِيْ مَخْمَصَةٍ Al-Ma'idah 5:3 MimはKha'の前でも軽いまま	فِيْ قُلُوْبِهِمْ مَّرَضٌ ۙ Al-Baqarah 2:10 Mimは重いRa'の前でも軽いまま

5.3 Ba、Jim、Qalqalahの文字

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٣٧ وَبَاءَ بَرْقٍ بَاطِلٍ بِهِمْ بِذِي — وَاحْرِصْ عَلَى الشِّدَّةِ وَالْجَهْرِ الَّذِي

٣٨ فِيهَا وَفِي الْجِيمِ كَجُبِّ الصَّبْرِ — رَبْوَةٍ اجْتُثَّتْ وَحَجِّ الْفَجْرِ

٣٩ وَبَيِّنَنْ مُقَلْقَلًا إِنْ سَكَنَا — وَإِنْ يَكُنْ فِي الْوَقْفِ كَانَ أَبْيَنَا

Baは軽い文字です。﴿وَبَرْقٌ﴾ (Al-Baqarah 2:19)や﴿وَبَٰطِلٌ﴾ (Al-A'raf 7:139)のような語で重くしたり、﴿بِهِمْ﴾ (Al-Baqarah 2:15)で弱めたりしないでください。BaとJimのShiddahとJahrを保ち、特に重子音や無音のときは、息も音も流れないようにします。次の例のとおりです。

重子音と無音のBaとJim

اَشَدُّ حُبًّا Al-Baqarah 2:165	وَتَوَاصَوْا بِالصَّبْرِ Al-Balad 90:17	بِرَبْوَةٍ Al-Baqarah 2:265
اجْتُثَّتْ Ibrahim 14:26	اَلْحَجُّ اَشْهُرٌ Al-Baqarah 2:197	وَالْفَجْرِ ۝١ Al-Fajr 89:1

さらに、*Qalqalah* (القَلْقَلَة)の文字が無音のときにはそれを明瞭にするよう命じ、停止するときにはいっそう明瞭になると述べています。詳細はQalqalahの章にあります。

5.4 Ha'とSin

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٤٠ وَحَاءَ حَصْحَصَ أَحَطتُّ الْحَقُّ — وَسِينَ مُسْتَقِيمٍ يَسْطُو يَسْقُو

Ha'が繰り返されるときや近い文字の隣にあるときは明瞭にします。﴿حَصْحَصَ الْحَقُّ﴾ (Yusuf 12:51)や﴿اَحَطْتُّ﴾ (An-Naml 27:22)のとおりです。Ta'やQafの前でSinを重くしてSadにしないよう注意します。﴿يَسْطُوْنَ﴾ (Al-Hajj 22:72)、﴿يَسْقُوْنَ﴾ (Al-Qasas 28:23)、﴿الْمُسْتَقِيْمَ﴾ (Al-Fatihah 1:6)のとおりです。

5.5 Sukun、Infitah、Shiddah

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٤٧ وَاحْرِصْ عَلَى السُّكُونِ فِي جَعَلْنَا — أَنْعَمْتَ وَالْمَغْضُوبِ مَعْ ضَلَلْنَا

٤٨ وَخَلِّصِ انْفِتَاحَ مَحْذُورًا عَسَى — خَوْفَ اشْتِبَاهِهِ بِمَحْظُورًا عَصَى

٤٩ وَرَاعِ شِدَّةً بِكَافٍ وَبِتَا — كَشِرْكِكُمْ وَتَتَوَفَّى فِتْنَتَا

- **完全なスクーン：** 近い文字の前の無音のLam、Nun、Mim、Ghaynでは、母音を加えず同化もさせません。﴿وَاِذْ جَعَلْنَا﴾ (Al-Baqarah 2:125)、﴿اَنْعَمْتَ﴾ (Al-Fatihah 1:7)、﴿الْمَغْضُوْبِ﴾ (Al-Fatihah 1:7)、﴿ضَلَلْنَا﴾ (As-Sajdah 32:10)のとおりです。
- **純粋なInfitah：** DhalとSinにおいて、﴿مَحْذُوْرًا﴾ (Al-Isra 17:57)を﴿مَحْظُوْرًا﴾ (Al-Isra 17:20)と、﴿وَعَسٰٓى﴾ (Al-Baqarah 2:216)を﴿وَعَصٰٓى﴾ (Taha 20:121)と混同しないようにします。
- **Shiddahを保つ：** KafとTaが繰り返されるとき。﴿بِشِرْكِكُمْ﴾ (Fatir 35:14)、﴿تَتَوَفّٰهُمُ﴾ (An-Nahl 16:28)、﴿وَالْفِتْنَةُ﴾ (Al-Baqarah 2:191)のとおりです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 34 から 49; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: فصل في تجويد الحروف وتصحيحها; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: أبواب الحروف; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: التنبيهات على بعض الحروف.

5.6 DadとDha'

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٥٢ وَالضَّادَ بِاسْتِطَالَةٍ وَمَخْرَجِ — مَيِّزْ مِنَ الظَّاءِ وَكُلُّهَا تَجِي

٥٣ فِي الظَّعْنِ ظِلِّ الظُّهْرِ عُظْمِ الْحِفْظِ — أَيْقِظْ وَأَنْظِرْ عَظْمِ ظَهْرِ اللَّفْظِ

٥٤ ظَاهِرْ لَظَى شُوَاظُ كَظْمٍ ظَلَمَا — اغْلُظْ ظَلَامَ ظُفُرٍ انْتَظِرْ ظَمَا

٥٥ أَظْفَرَ ظَنَّا كَيْفَ جَا وَعِظْ سِوَى — عِضِينَ ظَلَّ النَّحْلِ زُخْرُفٍ سَوَا

٥٦ وَظَلْتَ ظَلْتُمْ وَبِرُومٍ ظَلُّوا — كَالْحِجْرِ ظَلَّتْ شُعَرَا نَظَلُّ

٥٧ يَظْلَلْنَ مَحْظُورًا مَعَ الْمُحْتَظِرِ — وَكُنْتَ فَظًّا وَجَمِيعِ النَّظَرِ

٥٨ إِلَّا بِوَيْلٌ هَلْ وَأُولَى نَاضِرَهْ — وَالْغَيْظِ لَا الرَّعْدِ وَهُودٍ قَاصِرَهْ

٥٩ وَالْحَظُّ لَا الْحَضُّ عَلَى الطَّعَامِ — وَفِي ظَنِينٍ انْجَلَافُ سَامِي

٦٠ وَإِنْ تَلَاقَيَا الْبَيَانُ لَازِمُ — أَنْقَضَ ظَهْرَكَ يَعَضُّ الظَّالِمُ

٦١ وَاضْطُرَّ مَعْ وَعَظْتَ مَعْ أَفَضْتُمُ — وَصَفِّ هَا جِبَاهُهُمْ عَلَيْهِمُ

DadとDha'は耳で聞いて最も似ているため、詩人はDha'を含むクルアーンの語をすべて集めました。それ以外はすべてDadで書かれます。その語根には次のものがあります：الظَّعن، الظِّل، الظُّهر، العَظْم، الحفظ، اليَقَظة، الإنظار، اللفظ، الظاهر، لظى، الشُّواظ، الكَظْم، الظلم، الغِلظة، الظلام، الظُّفُر، الانتظار، الظمأ، الظن، الوعظ، ظلّ، المحظور، الفظ، النظر، الغيظ، الحظ。

彼は、似た音でDadで書かれる語を例外としました：﴿عِضِينَ﴾ (Al-Hijr 15:91)、﴿نَاضِرَةٌ﴾ (Al-Qiyamah 75:22)、﴿نَضْرَةً﴾ (Al-Insan 76:11)、﴿نَضْرَةَ﴾ (Al-Mutaffifin 83:24)、﴿تَغِيضُ﴾ (Ar-Ra'd 13:8)、﴿وَغِيضَ﴾ (Hud 11:44)、﴿يَحُضُّ﴾ (Al-Haqqah 69:34)。﴿بِضَنِينٍ﴾ (At-Takwir 81:24)では読み方が分かれ、ハフスはDadで読みます。

DadがDha'や近い文字と出会うときは、一方が他方に同化しないよう両方を明瞭にしなければなりません。

明瞭な区別

فَمَنِ اضْطُرَّ Al-Baqarah 2:173	يَعَضُّ الظَّالِمُ Al-Furqan 25:27	اَنْقَضَ ظَهْرَكَ Ash-Sharh 94:3
جِبَاهُهُمْ At-Tawbah 9:35 二つのHa'を明瞭に	اَفَضْتُمْ Al-Baqarah 2:198	اَوَعَظْتَ Ash-Shu'ara 26:136

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 52 から 61; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: الكلام على الضاد والظاء; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب الضاد وباب الظاء; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: الفرق بين الضاد والظاء.

章 6

TafkhimとTarqiq：重い文字と軽い文字

6.1 定義

Tafkhim（التَّفْخِيم）は言語的には太らせることを意味し、術語としては文字の音に満ちた響きが加わり、口がその反響で満たされることです。***Tarqiq***（التَّرْقِيق）は細くすることを意味し、術語としては音が細く、口がその反響で満たされないことです。

6.2 重さによる文字の分類

グループ	文字	規則
Isti'la'の文字	خُصَّ ضَغْطٍ قِظْ	常に重い。最も重いのはItbaqの文字：Sad、Dad、Ta'、Dha'
Istifalの文字	その他すべて	常に軽い。ただし三つを除く
重いときと軽いときがあるもの	الألف، واللام من اسم الله، والراء	以下に説明するように状況による

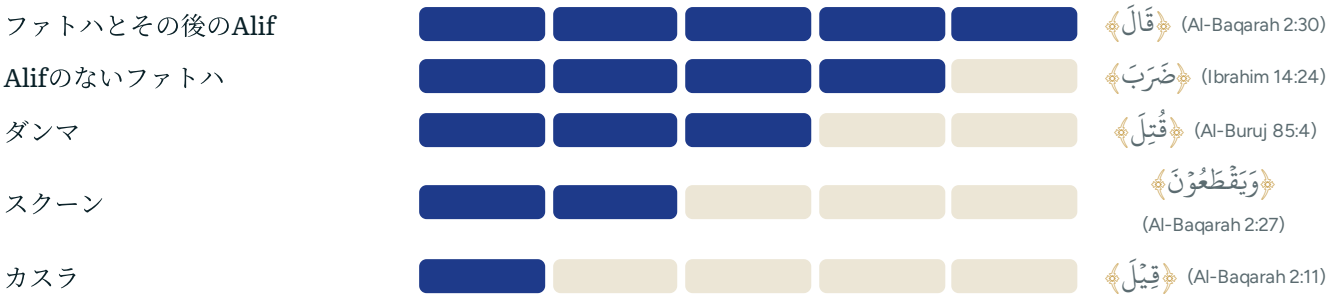
同様に、***Ikhfa'***（الإِخْفَاء）の***Ghunnah***（الغُنَّة）はその後の文字に従います。Isti'la'の文字の前では重く（﴿مِنْ قَبْلُ﴾ (Al-Baqarah 2:25)）、それ以外の前では軽くなります（﴿مِنْ كُلِّ﴾ (Al-Baqarah 2:164)）。

6.3 重さの段階

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٤٥ وَحَرْفَ الِاسْتِعْلَاءِ فَخِّمْ وَاخْصُصَا　　الِانْطِبَاقَ أَقْوَى نَحْوُ قَالَ وَالْعَصَا

重い文字がすべて同じ程度に重いわけではありません。文字そのものから見ると、Itbaqの文字は他のIsti'la'の文字より重く、詩人は「*qala*や*al-'asa*のように、Itbaqをより強いものとして区別せよ」と言います。母音から見ると、後代の学者の一団は五段階を挙げ、他の学者は三段階（ファトハ、次にダンマ、次にカスラ）を挙げて、無音の文字を前の母音に従わせました。最も低い段階でもなお重く、軽くはありません。



この5段階は一部の後代の学者の説に従ったものです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 45; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الكلام على تفخيم الحروف وترقيقها; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: مراتب التفخيم.

6.4 Alif

Alifはそれ自体では重くも軽くもなく、前の文字に従います。重い文字の後では重く（﴿قَالَ﴾ (Al-Baqarah 2:30)、﴿الضَّآلِّيْنَ﴾ (Al-Fatihah 1:7)）、軽い文字の後では軽くなります（﴿وَكُنْتُمْ اَمْوَاتًا﴾ (Al-Baqarah 2:28)）。詩人は軽い文字の後でAlifを重くしないよう警告し、「Alifを重くすることに気をつけよ」と言っています。

قَالَ	وَكُنْتُمْ اَمْوَاتًا	النَّارَ
Al-Baqarah 2:30	Al-Baqarah 2:28	Al-Baqarah 2:174
Qafの後の重いAlif	Wawの後の軽いAlif	Nunの後の軽いAlif

6.5 アッラーの御名のLam

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٤٤ وَفَخِّمِ اللَّامَ مِنِ اسْمِ اللَّهِ عَنْ فَتْحٍ اوْ ضَمٍّ كَعَبْدُ اللَّهِ

Lam Lafz al-Jalalah (لَام لَفْظ الجَلَالَة)は、ファトハかダンマの後では重く、またそこから読み始めるときも重くなります。そのときHamzat al-Waslにファトハが付くからです。本来のものでも一時的なものでも、同じ語の中でも前の語でも、カスラの後では軽くなります。اللّٰهمも同じ規則に従います。

اَللّٰهُ لَآ اِلٰهَ Al-Baqarah 2:255 読み始め：重い	مُحَمَّدٌ رَّسُوْلُ اللّٰهِ ؕ Al-Fath 48:29 ダンマの後：重い	شَهِدَ اللّٰهُ Ali 'Imran 3:18 ファトハの後：重い
قُلِ اللّٰهُمَّ Ali 'Imran 3:26 一時的なカスラの後：軽い	اَلْحَمْدُ لِلّٰهِ Al-Fatihah 1:2 同じ語のカスラの後：軽い	بِسْمِ اللّٰهِ Al-Fatihah 1:1 カスラの後：軽い

よくある誤り

カスラの後でアッラーの御名のLamを重くしたり、ファトハやダンマの後で軽くしたりするのは誤りです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 44; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب اللامات، الكلام على لام اسم الله تعالى; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: أحكام لام لفظ الجلالة.

章 7

Ra'の規則

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٤١ وَرَقِّقِ الرَّاءَ إِذَا مَا كُسِرَتْ — كَذَاكَ بَعْدَ الْكَسْرِ حَيْثُ سَكَنَتْ

٤٢ إِنْ لَمْ تَكُنْ مِنْ قَبْلِ حَرْفِ اسْتِعْلَا — أَوْ كَانَتِ الْكَسْرَةُ لَيْسَتْ أَصْلَا

٤٣ وَاخْلُفْ فِي فِرْقٍ لِكَسْرٍ يُوجَدُ — وَأَخْفِ تَكْرِيرًا إِذَا تُشَدَّدُ

Ra'はIstifalの文字ですが、ある場合には重く、ある場合には軽くなります。多くの学者はその基本の状態を重いとみなすため、軽くなる理由が説明されます。母音のあるRa'ではその母音を、無音のRa'ではその前にあるものを見ます。

7.1 Ra'が重いとき

場合	例
ファトハを伴う	﴿رَبَّنَا تَقَبَّلْ﴾ (Al-Baqarah 2:127)
ダンマを伴う	﴿تِلْكَ الرُّسُلُ﴾ (Al-Baqarah 2:253)
ファトハの後の無音	﴿مَرْيَمَ﴾ (Maryam 19:16)
ダンマの後の無音	﴿تُرْجَعُونَ﴾ (Al-Baqarah 2:28)
語頭の一時的なカスラの後の無音	﴿ارْجِعِيٓ﴾ (Al-Fajr 89:28)
前の語のカスラの後の無音	﴿رَبِّ ارْجِعُونِ﴾ (Al-Mu'minun 23:99)
本来のカスラの後の無音で、同じ語の中にカスラのないIsti'la'の文字が続く	﴿قِرْطَاسٍ﴾ (Al-An'am 6:7) ﴿فِرْقَةٍ﴾ (At-Tawbah 9:122) ﴿لَبِالْمِرْصَادِ﴾ (Al-Fajr 89:14)
停止時の無音で、前にYa以外の無音の文字があり、そのさらに前がファトハかダンマ	﴿وَالْعَصْرِ ۝١﴾ (Al-'Asr 103:1) ﴿خُسْرٍ﴾ (Al-'Asr 103:2)
停止時、AlifまたはマッドのWawの後の無音	﴿عَذَابَ النَّارِ﴾ (Al-Baqarah 2:201) ﴿غَفُورٌ﴾ (Fatir 35:28)

カスラの後の無音のRa'に同じ語の中でIsti'la'の文字が続くのは、次の五語だけです：﴿قِرْطَاسٍ﴾ (Al-An'am 6:7)、﴿فِرْقَةٍ﴾ (At-Tawbah 9:122)、﴿لَبِالْمِرْصَادِ﴾ (Al-Fajr 89:14)、﴿مِرْصَادًا﴾ (An-Naba 78:21)、﴿وَإِرْصَادًا﴾ (At-Tawbah 9:107)。

7.2 Ra'が軽いとき

場合	例
カスラを伴う	﴿رِجَالٌ﴾ (Al-A'raf 7:46) ﴿وَفِي الرِّقَابِ﴾ (Al-Baqarah 2:177)
同じ語の本来のカスラの後の無音で、後にIsti'la'の文字がない	﴿فِرْعَوْنَ﴾ (Al-Baqarah 2:49) ﴿فِي مِرْيَةٍ﴾ (Hud 11:17) ﴿وَاصْبِرْ﴾ (An-Nahl 16:127)
停止時、無音のYaの後の無音	﴿قَدِيرٌ﴾ (Al-Baqarah 2:20) ﴿خَبِيرٌ﴾ (Al-Baqarah 2:234)
停止時、カスラに続く無音の文字（Ya以外）の後の無音	﴿لِذِي حِجْرٍ﴾ (Al-Fajr 89:5)
ハフスにおけるImalahを伴うRa'	﴿مَجْرِيهَا﴾ (Hud 11:41)

7.3 両方が許される場合

語	法的位置づけ
﴿كُلُّ فِرْقٍ﴾ (Ash-Shu'ara 26:63)	続けて読むときも止まるときも、Isti'la'の文字のために重く、その文字にカスラがあるために軽く、どちらも正しく読誦されています。
﴿بِمِصْرَ﴾ (Yunus 10:87)	停止時：両方。イブン・アル＝ジャザリーは続けて読むときを考慮して重さを選びました。
﴿عَيْنَ الْقِطْرِ﴾ (Saba 34:12)	停止時：両方。イブン・アル＝ジャザリーは続けて読むときを考慮して軽さを選びました。
﴿يَسْرِ﴾ (Al-Fajr 89:4) ﴿فَأَسْرِ﴾ (Hud 11:81) ﴿وَنُذُرِ﴾ (Al-Qamar 54:16)	停止時：両方。多くの師は省略されたYaを考慮して軽さを好みます。

7.4 Ra'の震え

詩人は「重子音のときは震えを隠せ」と言います。Ra'には*Takrir*（التَّكْرِير）の特性があり、目的はそれを示すことではなく隠すことです。読誦者は舌先が震えないよう舌をしっかり口蓋に付けます。特に﴿الرَّحْمَٰنِ﴾ ﴿الرَّحِيمِ ۝٣﴾ (Al-Fatihah 1:3)のような重子音のRa'でそうします。音が詰まるほど過度にするのも誤りです。

規則のまとめ

母音のあるRa'は、ファトハとダンマでは重く、カスラでは軽くなります。無音のRa'は前にあるものに従います。ファトハとダンマの後では重く、本来のカスラの後では軽く（ただし同じ語にIsti'la'の文字が続く場合を除く）、一時的なカスラの後では重くなります。停止時は無音の文字の前の文字を見ます。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 41 から 43; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الراءات; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب الراء; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: أحكام الراء.

章 8

無音のLamの規則

クルアーンの無音のLamには五種類あります。***Lam at-Ta'rif***(لَام التَّعْرِيف)、動詞のLam、小辞のLam、命令のLam、名詞のLamです。それぞれ次の文字と出会うときの規則があります。

8.1 定冠詞のLam

定冠詞のLamには二つの状態があります。ابْغِ حَجَّكَ وَخَفْ عَقِيمَهُにまとめられた十四文字の前では***Izhar Qamari***(الإِظْهَار القَمَرِيّ)となり、Lamをスクーンとともに明瞭に発音します。残りの十四文字、すなわちطِبْ ثُمَّ صِلْ رَحِمًا تَفُزْ ضِفْ ذَا نِعَمْ دَعْ سُوءَ ظَنٍّ زُرْ شَرِيفًا لِلْكَرَمْの各語の頭文字の前では***Idgham Shamsi***(الإِدْغَام الشَّمْسِيّ)となり、Lamは発音されず次の文字が重子音になります。

اَلْحَمْدُ
Al-Fatihah 1:2
Izhar Qamari

الْكِتٰبُ
Al-Baqarah 2:2
Izhar Qamari

الْمُفْلِحُوْنَ
Al-Baqarah 2:5
Izhar Qamari

الرَّحْمٰنِ
Al-Fatihah 1:3
Idgham Shamsi

وَالشَّمْسِ
Ash-Shams 91:1
Idgham Shamsi

الَّذِيْنَ
Al-Fatihah 1:7
Idgham Shamsi

8.2 動詞のLam

これは過去形・現在形・命令形の動詞の本来の無音のLamです。常に明瞭に発音されますが、LamまたはRa'が続く場合はそれに同化します。詩人が「そしてqul na'am」と注意しているように、Nunの前では特に明瞭に発音してください。

وَاِذْ قُلْنَا
Al-Baqarah 2:34
Izhar

قُلْ نَعَمْ
As-Saffat 37:18
Nunの前のIzhar

فَالْتَقَمَهُ
As-Saffat 37:142
Izhar

وَقُلْ رَّبِّ
Al-Isra 17:80
Ra'に同化

فَلَا تَقُلْ لَّهُمَآ
Al-Isra 17:23
Lamに同化

8.3 小辞のLam

これはهلとبلのLamです。LamとRa'の前では同化しますが、それ以外では明瞭に発音されます。例外は﴿بَلْ ۜ رَانَ﴾ (Al-Mutaffifin 83:14)で、ハフスはLamで軽く間を置くため同化しません。

بَلْ لَّا

Al-Fajr 89:17
Idgham

بَلْ رَّفَعَهُ

An-Nisa 4:158
Idgham

بَلْ ۜ رَانَ

Al-Mutaffifin 83:14
ハフスのSakt

هَلْ اَتٰى

Al-Insan 76:1
Izhar

8.4 命令のLamと名詞のLam

命令のLamはثم، ف، وの後の現在形動詞に付きます。名詞のLamは名詞の中にある本来のLamです。どちらも常に明瞭に発音されます。

اَلْسِنَتِكُمْ

Ar-Rum 30:22
名詞のLam

وَلْيَتَلَطَّفْ

Al-Kahf 18:19
命令のLam

فَلْيَعْبُدُوْا

Quraysh 106:3
命令のLam

補足

多くのインド・パキスタン版では「﴿وَلْيَتَلَطَّفْ﴾ (Al-Kahf 18:19)」という語に印があります。その文字数の数え方では、これがクルアーンの中央にあたるからです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 50 から 51; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الإدغام الصغير; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: أحكام اللامات السواكن.

章 9

Nun SakinahとTanwinの規則

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٦٥ وَحُكْمُ تَنْوِينٍ وَنُونٍ يُلْفَى — إِظْهَارٌ ادْغَامٌ وَقَلْبٌ إِخْفَا

٦٦ فَعِنْدَ حَرْفِ الْحَلْقِ أَظْهِرْ وَادَّغِمْ — فِي اللَّامِ وَالرَّا لَا بِغُنَّةٍ لَزِمْ

٦٧ وَأَدْغِمَنْ بِغُنَّةٍ فِي يُومِنُ — إِلَّا بِكِلْمَةٍ كَدُنْيَا عَنْوَنُوا

٦٨ وَالْقَلْبُ عِنْدَ الْبَا بِغُنَّةٍ كَذَا — الِاخْفَا لَدَى بَاقِي الْحُرُوفِ أُخِذَا

9.1 定義

Nun Sakinah（النُّون السَّاكِنَة）は母音のないNunで、続けて読むときも止まるときも残ります。名詞・動詞・小辞の語中や語末に現れます。*Tanwin*（التَّنْوِين）は名詞の末尾に付く、発音されるが書かれない付加的な無音のNunです。続けて読むときに発音され、止まるときには落ち、ムスハフでは重ねた母音記号で書かれます：﴿عَذَابٌ عَظِيمٌ﴾ (Al-Baqarah 2:7)。

アルファベットの文字と出会うとき、四つの規則があります：*Izhar*（الإِظْهَار）、*Idgham*（الإِدْغَام）、*Iqlab*（الإِقْلَاب）、*Ikhfa'*（الإِخْفَاء）。その後にAlifが来ることはありません。

Nun SakinahとTanwin：次の文字を見る

Izhar
ء ه ع ح غ خ
明瞭なNun、Ghunnahを加えない

Idgham
ي ن م و | ل ر
*yanmu*の文字ではGhunnahあり、LamとRa'ではなし

Iqlab
ب
Ghunnahを伴う隠れたMimに変わる

Ikhfa'
ص ذ ث ك ج ش ق
س د ط ز ف ت ض
ظ
IzharとIdghamの中間、Ghunnahを伴う

9.2 Izhar Halqi

*Izhar*は「明らかにすること」を意味し、術語としては、のどの文字が続くときに、無音のNunまたはタンウィーンを、余分なGhunnahなしにその調音点から発音することです。その六文字は*Huruf al-Halq*（حُرُوف الحَلْق）：Hamzah、Ha'、'Ayn、Ha'、Ghayn、Kha'です。理由は、Nunのマフラジュとこれらの文字との距離にあります。Nunでは一語の中でも二語にわたっても起こり、Tanwinでは二語にわたる場合のみです。

Izhar Halqi

مَنْ اٰمَنَ Al-Baqarah 2:62	يَنْهَوْنَ Al-An'am 6:26	مِنْ عِلْمٍ An-Nisa 4:157
مِنْ حَكِيْمٍ حَمِيْدٍ Fussilat 41:42	مِنْ غِلٍّ Al-A'raf 7:43	مَنْ خَشِيَ Qaf 50:33
عَذَابٌ عَظِيْمٌ Al-Baqarah 2:7 'Aynの前のTanwin	اَنْعَمْتَ Al-Fatihah 1:7	مِنْهُمْ Al-Baqarah 2:75

補足

インド・パキスタン版ムスハフでは、無音のNunには常にスクーン（ジャズム）が付きます。Izharは、次の文字が喉音であることで見分けます。

9.3 Idgham

*Idgham*は「入れ込むこと」を意味し、術語としては、無音の文字が母音のある文字と出会い、後者の種類の一つの重子音になることです。その六文字はيَرْمُلُونにまとめられ、二種類あります。

Idgham bi-Ghunnah

يَنْمُوにまとめられた四文字、すなわちYa、Nun、Mim、Wawで起こります。NunとMimでは***Idgham Kamil***(الإِدْغَام الكَامِل)となり、Nunもその特性も消え、Ghunnahは同化先の文字に属します。WawとYaでは***Idgham Naqis***(الإِدْغَام النَّاقِص)となり、Nunは消えますが、その特性であるGhunnahは残ります。

Idgham bi-Ghunnah

مَنْ يَّقُوْلُ Al-Baqarah 2:8 Yaの前のNun	مِنْ نِّعْمَةٍ An-Nahl 16:53 Nunの前のNun	مِنْ مَّآءٍ Al-Baqarah 2:164 Mimの前のNun
مِنْ وَّالٍ Ar-Ra'd 13:11 Wawの前のNun	وُجُوْهٌ يَّوْمَئِذٍ نَّاضِرَةٌ ﴿٢٢﴾ Al-Qiyamah 75:22 Yaの前、次にNunの前のTanwin	عَذَابٌ مُّهِيْنٌ Al-Baqarah 2:90 Mimの前のTanwin

Idgham bila Ghunnah

LamとRa'の二文字で起こります。NunもGhunnahも消える完全な同化です。

Idgham bila Ghunnah

مِنْ لَّدُنْهُ	مِنْ رَّبِّهِمْ ق	غَفُوْرٌ رَّحِيْمٌ
An-Nisa 4:40	Al-Baqarah 2:5	Al-Baqarah 2:173 Ra'の前のTanwin

条件と例外

Idghamには二語が必要です。無音のNunとWawまたはYaが一語の中にある場合は、重子音の語根と混同されないよう ***Izhar Mutlaq*** (الإِظْهَار الْمُطْلَق) が必要です。これは四語のみで、﴿الدُّنْيَا﴾ (Al-Baqarah 2:85)、﴿بُنْيَانٌ﴾ (As-Saf 61:4)、﴿قِنْوَانٌ﴾ (Al-An'am 6:99)、﴿صِنْوَانٌ﴾ (Ar-Ra'd 13:4)です。詩人が「ただし *dunya*のように一語の中では別」と言うとおりです。

シャーティビーヤ経路のハフスでは次も例外です。Izharで読む﴿يٰسٓ ۝١﴾ (Ya-Sin 36:1) ﴿وَالْقُرْاٰنِ الْحَكِيْمِ ۝٢﴾ (Ya-Sin 36:2) と﴿نٓ وَالْقَلَمِ﴾ (Al-Qalam 68:1) のNun、そしてその上に ***Sakt*** (السَّكْت) があるため﴿مَنْ ۜ رَاقٍ﴾ (Al-Qiyamah 75:27)のNunです。

> **補足**
> インド・パキスタン版ムスハフでは、スクーンはNunの上に残ります。次の文字にシャッダがあればIdgham、なければ規則は次の文字によってIzhar、Iqlab、Ikhfa'のいずれかになります。

9.4 Iqlab

*Iqlab*は「転換」を意味し、術語としては、Baの前で無音のNunまたはTanwinをGhunnahを伴う隠れたMimに変えることです。その文字はBaのみで、一語の中でも二語にわたっても起こります。唇を押しつけずに軽く閉じ、2拍のGhunnahを保ちます。

インド・パキスタン版のムスハフでは、その記号は、スクーン（ジャズム）を保ったNunの後、または完全なタンウィーンの後に書かれる小さなMimです。

Iqlab

مِنْۢ بَعْدِ	اَنْۢبِئْهُمْ	سَمِيْعٌۢ بَصِيْرٌ
Al-Baqarah 2:27	Al-Baqarah 2:33	Al-Hajj 22:61 Baの前のTanwin

よくある誤り

Iqlabで唇を強く押しつけること、唇を開けたままにしてNunが聞こえること、Ghunnahを落とすことは誤りです。

9.5 Ikhfa' Haqiqi

*Ikhfa'*は「隠すこと」を意味し、術語としては、無音のNunまたはTanwinを、重子音にせずGhunnahを保ちながら、IzharとIdghamの中間の状態で発音することです。その文字は残りの十五文字で、صِفْ ذَا ثَنَا كَمْ جَادَ شَخْصٌ قَدْ سَمَا دُمْ طَيِّبًا زِدْ فِي تُقًى ضَعْ ظَالِمًا の各語の頭文字です。舌はNunのマフラジュに付かず次の文字のマフラジュに近づき、2拍のGhunnahを伴います。

Ikhfa'の十五文字

مِنْ ثَمَرَةٍ Al-Baqarah 2:25 ث の前	مَنْ ذَا Al-Baqarah 2:245 ذ の前	مِنْ صَلْصَالٍ Al-Hijr 15:26 ص の前
فَمَنْ شَآءَ Al-Muzzammil 73:19 ش の前	اَنْجَيْنٰكُمْ Al-A'raf 7:141 ج の前	مِنْ كُلِّ Al-Baqarah 2:164 ك の前
مِنْ دُوْنِ Al-Baqarah 2:23 د の前	مِنْ سُلٰلَةٍ Al-Mu'minun 23:12 س の前	مِنْ قَبْلُ Al-Baqarah 2:25 ق の前
مِنْ فَضْلِهٖ لا Ali 'Imran 3:170 ف の前	فَاِنْ زَلَلْتُمْ Al-Baqarah 2:209 ز の前	مِنْ طِيْنٍ Al-Mu'minun 23:12 ط の前
مِنْ ظَهِيْرٍ Saba 34:22 ظ の前	مَنْ ضَلَّ Al-Ma'idah 5:105 ض の前	مِنْ تَحْتِهَا Al-Baqarah 2:25 ت の前

Ikhfa'の段階とそのGhunnahの重さ

Ikhfa'には、文字がNunのマフラジュにどれだけ近いかに応じて三段階あります。最も近いTa'、Dal、Taの前では**最も強く**、最も遠いQafとKafの前では**最も弱く**、その他の前では**中間**です。Ghunnahは次

の文字に従い、Isti'la'の文字の前では重く（﴿مِنْ قَبْلُ﴾ (Al-Baqarah 2:25)、﴿مِنْ طِيْنٍ﴾ (Al-Mu'minun 23:12)）、その他の前では軽くなります（﴿مِنْ كُلِّ﴾ (Al-Baqarah 2:164)）。

よくある誤り

Ikhfa'でよくある誤り：Nunのマフラジュに触れてNunが聞こえること、GhunnahをWawやYaが生じるまで伸ばすこと、Fa'の前で隠れたNunをMimに変えること。

規則のまとめ

Nun SakinahとTanwin：六つの喉音の前ではIzhar、二語にわたるyanmuの文字ではGhunnahを伴うIdgham、LamとRa'ではGhunnahなしのIdgham、Baの前ではIqlab、残り十五文字の前ではIkhfa'。Izharを除き、Ghunnahは2拍続きます。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 65 から 68; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب أحكام النون الساكنة والتنوين; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب أحكام النون الساكنة والتنوين; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: أحكام النون الساكنة والتنوين.

章 10

Mim Sakinahの規則

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٦٣ الْمِيمَ إِنْ تَسْكُنْ بِغُنَّةٍ لَدَى بَاءٍ عَلَى الْمُخْتَارِ مِنْ أَهْلِ الْأَدَا

٦٤ وَأَظْهِرَنَّهَا عِنْدَ بَاقِي الْأَحْرُفِ وَاحْذَرْ لَدَى وَاوٍ وَفَا أَنْ تَخْتَفِي

Mim Sakinah（الميم السَّاكِنَة）は母音のないMimで、続けて読むときも止まるときも残ります。アルファベットの文字の前で三つの規則があります。

10.1 Ikhfa' Shafawi

無音のMimの後にBaが来ると、MimはGhunnahを伴って隠されます。MimもBaも唇から出るため、これを***Ikhfa' Shafawi***（الإِخْفَاء الشَّفَوِيّ）といいます。唇は圧力をかけずに穏やかに閉じます。これはイブン・アル＝ジャザリーが選び、実践されている見解で、「読誦の大家たちの選択による」とされます。ある一団はBaの前でのIzharを好み、イブン・アル＝ジャザリーは*an-Nashr*で、それがマッキーの選択であったと伝えています。

Ikhfa' Shafawi

وَمَا هُمْ بِمُؤْمِنِينَ	وَهُمْ بِالْآخِرَةِ	تَرْمِيهِمْ بِحِجَارَةٍ
Al-Baqarah 2:8	Yusuf 12:37	Al-Fil 105:4

10.2 二つのMimのIdgham

無音のMimの後に母音のあるMimが来ると、前者は後者に同化し、2拍のGhunnahを伴います。後のMimにはシャッダが付きます。

二つのMimの同化

أَمْ مَّنْ يَّكُوْنُ	وَلَهُمْ مَّا يَشْتَهُوْنَ
An-Nisa 4:109	An-Nahl 16:57

10.3 Izhar Shafawi

Baと Mim以外のすべての文字の前では***Izhar Shafawi***(الإِظْهَار الشَّفَوِيّ)が必要です。Wawと Fa'の前では特に注意し、そこでMimを隠さないようにします。Fa'はMimに近く、WawはMimとマフラジュを共有するからです。詩人は「Wawと Fa'の前でそれを隠すことに気をつけよ」と言います。

Izhar Shafawi

عَلَيْهِمْ وَلَا

Al-Fatihah 1:7

وَهُمْ فِيهَا

Al-Baqarah 2:25

اَمْ لَمْ

Al-Baqarah 2:6

ءَاَنْذَرْتَهُمْ اَمْ

Al-Baqarah 2:6

補足

複数のMimの後に無音の文字が来るときは、無音の文字が二つ連続しないようダンマが付きます。﴿عَلَيْهِمُ الذِّلَّةُ﴾ (Al-Baqarah 2:61)のとおりです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 63 から 64; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: الكلام على الميم الساكنة; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب الميم; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: أحكام الميم الساكنة.

章 11

重子音のNunとMim、そしてGhunnahの段階

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٦٢ وَأَظْهِرِ الْغُنَّةَ مِنْ نُونٍ وَمِنْ
مِيمٍ إِذَا مَا شُدِّدَا وَأَخْفِيَنْ

11.1 Ghunnah

Ghunnah（الغُنَّة）はNunとMimに備わった鼻音で、舌の働きなしに*Khayshum*（الخَيْشُوم）から出ます。鼻をつまむと止まります。Tanwinを含め、NunとMimの恒常的な特性です。

11.2 重子音のNunとMim

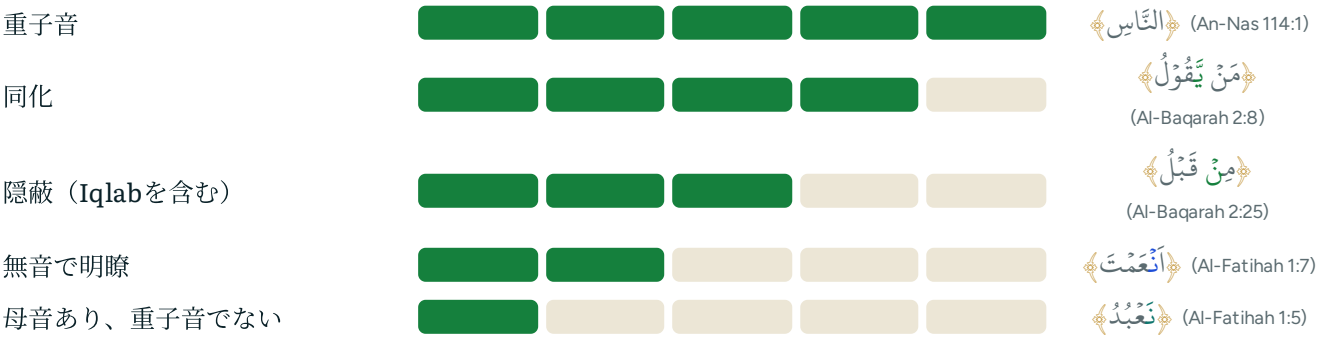
詩人は、重子音のNunやMimではGhunnahを十分に現すよう、すなわち語中でも語末でも、続けて読むときも止まるときも2拍保つよう命じています。いずれも「Ghunnahの重子音文字」と呼ばれます。

重子音のNunとMim

النَّاسِ An-Nas 114:1	اِنَّ الَّذِيْنَ Al-Baqarah 2:6	عَمَّ An-Naba 78:1
ثُمَّ يُمِيْتُكُمْ Al-Baqarah 2:28	ثُمَّ اِلَيْهِ Al-Baqarah 2:28	الْيَمِّ Taha 20:78

11.3 Ghunnahの段階

Ghunnahには五段階あります。最も完全なのは重子音のとき、次に同化のとき、次に隠蔽のとき（Iqlabを含む）で、この三つでは2拍保ちます。次に明瞭な無音の文字、次に母音のある文字で、この二つでは文字から決して離れない基本のGhunnahだけがあります。



よくある誤り

重子音の文字でGhunnahを落とすこと、2拍を超えて伸ばすこと、明瞭な無音のNunにGhunnahを加えることは誤りです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 62; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: الكلام على الغنة; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: مراتب الغنة.

章 12

Mithlayn、Mutajanisayn、Mutaqaribayn

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٥٠ وَأَوَّلَيْ مِثْلٍ وَجِنْسٍ إِنْ سَكَنْ أَدْغِمْ كَقُلْ رَبِّ وَبَلْ لَا وَأَبَنْ

٥١ فِي يَوْمِ مَعْ قَالُوا وَهُمْ وَقُلْ نَعَمْ سَبِّحْهُ لَا تُزِغْ قُلُوبَ فَالْتَقَمْ

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٤٦ وَبَيِّنِ الْإِطْبَاقَ مِنْ أَحَطتُّ مَعْ بَسَطتَّ وَاخْلُفْ بِخَلْقُكُّمْ وَقَعْ

二つの文字が書記と発音の上で出会うとき、マフラジュと特性の関係に応じて四つの名称があります。

名称	定義	例
Mithlayn (المِثْلَان)	同じマフラジュで同じ特性：同じ文字が二度	﴿اضْرِبْ بِّعَصَاكَ﴾ (Al-Baqarah 2:60)
Mutajanisayn (المُتَجَانِسَان)	同じマフラジュで異なる特性	﴿قَد تَّبَيَّنَ﴾ (Al-Baqarah 2:256)
Mutaqaribayn (المُتَقَارِبَان)	マフラジュまたは特性が近い	﴿وَقُل رَّبِّ﴾ (Al-Isra 17:80)
Mutaba'idayn (المُتَبَاعِدَان)	マフラジュが遠く、特性も異なる	﴿نَعْبُدُ﴾ (Al-Fatihah 1:5)

それぞれ三種類あります。前が無音で後に母音がある場合は**saghir**（小）、両方に母音がある場合は**kabir**（大）、前に母音があり後が無音の場合は**mutlaq**（絶対）です。ハフスでは同化は主にsaghirで起こり、kabirでは少数の語を除きIzharが基本で、mutlaqでは同化はありません。

12.1 Mithlayn Saghir

無音の文字は、一語の中でも二語にわたっても、母音のある同じ文字に同化しなければなりません。詩人は「同一または同じマフラジュの二文字のうち、最初のものが無音なら同化せよ」と言います。

同一文字の同化

يُدْرِكْكُّمُ An-Nisa 4:78	رَبِحَتْ تِّجَارَتُهُمْ Al-Baqarah 2:16	وَقَدْ دَّخَلُوْا Al-Ma'idah 5:61
اِذْ ذَّهَبَ Al-Anbya 21:87	بَلْ لَّا Al-Fajr 89:17	عَصَوْا وَّكَانُوْا Al-Baqarah 2:61 同化したLinのWaw

例外

- **最初がマッドの文字の場合：** 同化せずに伸ばし、それから後の文字を発音します。詩人は「*fi yawm* と*qalu wa-hum*を明瞭にせよ」と言います：﴿قَالُوْا وَهُمْ﴾ (Ash-Shu'ara 26:96)、﴿فِيْ يَوْمٍ﴾ (Al-Ma'arij 70:4)。
- **﴿مَالِيَهْ﴾ (Al-Haqqah 69:28)の休止のHa'と﴿هَلَكَ﴾ (Al-Haqqah 69:29)：** ハフスでは続けて読むとき二通りあります。軽い*Sakt*(السَّكْت)を伴うIzhar、またはIdghamです。

12.2 Mutajanisayn Saghir

ハフスでは次の場合に同化し、それ以外では明瞭に発音します。

文字	例	種類
د ← ت	﴿أُجِيْبَتْ دَّعْوَتُكُمَا﴾ (Yunus 10:89) ﴿اَثْقَلَتْ دَّعَوَا﴾ (Al-A'raf 7:189)	完全
ت ← ط	﴿وَقَالَتْ طَّآئِفَةٌ﴾ (Ali 'Imran 3:72) ﴿وَدَّتْ طَّآئِفَةٌ﴾ (Ali 'Imran 3:69)	完全
ت ← د	﴿قَدْ تَّبَيَّنَ﴾ (Al-Baqarah 2:256) ﴿عَبَدْتُّمْ﴾ (Al-Kafirun 109:4)	完全
ذ ← ث	﴿يَلْهَثْ ذٰلِكَ﴾ (Al-A'raf 7:176)	完全
ظ ← ذ	﴿اِذْ ظَّلَمُوْٓا﴾ (An-Nisa 4:64)	完全
م ← ب	﴿ارْكَبْ مَّعَنَا﴾ (Hud 11:42)	完全
ت ← ط	﴿بَسَطْتَّ﴾ (Al-Ma'idah 5:28) ﴿اَحَطْتُّ﴾ (An-Naml 27:22) ﴿فَرَّطْتُّمْ﴾ (Yusuf 12:80)	不完全：Ta'のItbaqとIsti'la'が残る

よくある誤り

﴿بَسَطْتَّ﴾ (Al-Ma'idah 5:28)と﴿اَحَطْتُّ﴾ (An-Naml 27:22)では、Ta'を完全に同化させて純粋なTaにすることも、Qalqalahを伴って明瞭に発音することも誤りです。正しくはTa'のItbaqを残した重子音のTaで、詩人は「*ahattu*と*basatta*ではItbaqを明瞭にせよ」と言います。

12.3 Mutaqaribayn Saghir

ハフスでは、無音のLamはRa'に同化します（﴿وَقُلْ رَّبِّ﴾ (Al-Isra 17:80)、﴿بَلْ رَّفَعَهُ﴾ (An-Nisa 4:158)）。ただし﴿بَلْ ۜ رَانَ﴾ (Al-Mutaffifin 83:14)はSaktのため例外です。無音のQafは﴿نَخْلُقْكُّمْ﴾ (Al-Mursalat 77:20)でKafに同化し、二通りあります。好まれる完全な同化と、QafのIsti'la'が残る不完全な同化です。詩人は「*nakhluqkum*で相違が生じた」と言います。無音のNunがLamとRa'に同化するのもこれに属します。

12.4 明瞭さが必要な箇所

詩人は、文字が近いために同化が入り込みやすい語について警告しました。これらは明瞭に発音しなければなりません。

Izhar

قُلْ نَعَمْ
As-Saffat 37:18

فَسَبِّحْهُ
Qaf 50:40

لَا تُزِغْ قُلُوْبَنَا
Ali 'Imran 3:8

فَالْتَقَمَهُ
As-Saffat 37:142

その他の例（詩からではないもの）

فَقَدْ ضَلَّ
An-Nisa 4:116

قَدْ سَمِعَ
Al-Mujadila 58:1

12.5 ハフスにおけるkabir

ハフスではkabirの基本はIzharで、同化は少数の語でのみ起こります。後述する***Ishmam***(الإِشْمَام)または***Rawm***(الرَّوْم)を伴う﴿لَا تَاْمَنَّا﴾ (Yusuf 12:11)、﴿مَا مَكَّنِّيْ﴾ (Al-Kahf 18:95)、﴿فَنِعِمَّا﴾ (Al-Baqarah 2:271)、﴿اَتُحَآجُّوْٓنِّيْ﴾ (Al-An'am 6:80)などです。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 46 から 51; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الإدغام الصغير; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب الإدغام; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: المثلان والمتجانسان والمتقاربان.

章 13

Qalqalah

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٣٩ وَبَيِّنَنْ مُقَلْقَلًا إِنْ سَكَنَا　　وَإِنْ يَكُنْ فِي الْوَقْفِ كَانَ أَبْيَنَا

Qalqalah (القَلْقَلَة)は「揺れ」を意味し、術語としては、無音の文字を発音するときに音が跳ね返り、強い反響が聞こえることです。その五文字はقُطْبُ جَدٍにまとめられたQaf、Ta'、Ba、Jim、Dalです。これらはShiddahとJahrを兼ね備え、Shiddahが音を、Jahrが息を止めるため、聞こえるにはこの解放が必要なのです。

13.1 Qalqalahの段階

段階	場所	例
最も強い	停止時の重子音の文字	﴿وَتَبَّ﴾ (Al-Masad 111:1) ﴿الْحَقِّ﴾ (Al-Kahf 18:44)
中間	停止のために無音になった文字（重子音でない）	﴿الْفَلَقِ﴾ (Al-Falaq 113:1) ﴿مُحِيطٌ﴾ (Al-Buruj 85:20) ﴿اَحَدٌ﴾ (Al-Ikhlas 112:4)
最も軽い	続けて読むときの本来無音の文字	﴿وَيَقْطَعُوْنَ﴾ (Al-Baqarah 2:27) ﴿يَجْعَلُوْنَ﴾ (Al-Baqarah 2:19) ﴿اَبْصَارِهِمْ﴾ (Al-Baqarah 2:7)

文字を無音で発音し、そのあと調音点がわずかに開きます。有力な説では音はファトハに近く、別の説では直前の母音に従います。完全な母音になったり伸ばされたりしてはなりません。母音のある文字にQalqalahはありません。

よくある誤り

誤り：﴿وَيَقْطَعُوْنَ﴾ (Al-Baqarah 2:27)のような語でQalqalahを落とすこと、文字に完全な母音を付けること、KafやTaなど他の文字にQalqalahを加えること、その後にHamzahを付けること。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 39; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: الكلام على صفة القلقلة; Makki ibn Abi Talib, *ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah*: باب القلقلة; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: القلقلة ومراتبها.

章 14

MaddとQasr：伸ばし

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٦٩ وَالْمَدُّ لَازِمٌ وَوَاجِبٌ أَتَى — وَجَائِزٌ وَهْوَ وَقَصْرٌ ثَبَتَا

٧٠ فَلَازِمٌ إِنْ جَاءَ بَعْدَ حَرْفِ مَدّْ — سَاكِنُ حَالَيْنِ وَبِالطُّولِ يُمَدّْ

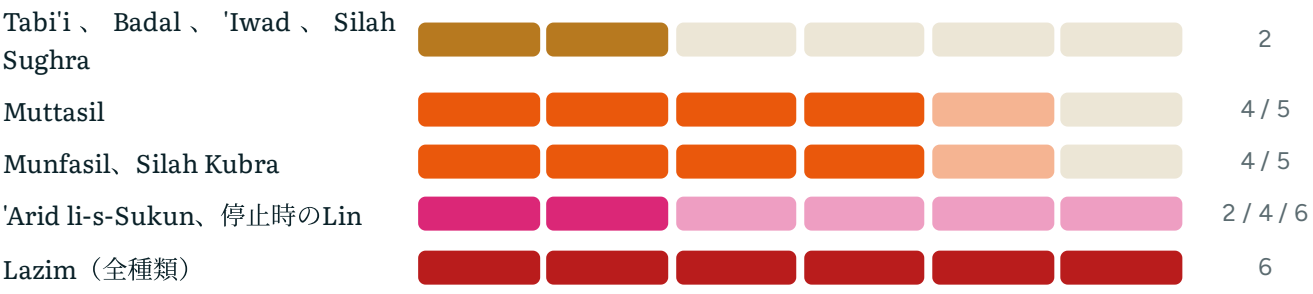
٧١ وَوَاجِبٌ إِنْ جَاءَ قَبْلَ هَمْزَةِ — مُتَّصِلًا إِنْ جُمِعَا بِكِلْمَةِ

٧٢ وَجَائِزٌ إِذَا أَتَى مُنْفَصِلَا — أَوْ عَرَضَ السُّكُونُ وَقْفًا مُسْجَلَا

14.1 定義とマッドの文字

Madd(المَدّ)は「増やすこと」を意味し、術語としては、マッドの文字がHamzahまたはスクーンと出会うときに音を伸ばすことです。***Qasr***(القَصْر)は「抑えること」を意味し、術語としては、マッドの文字を自然な長さに保つことです。***Huruf al-Madd***(حُرُوف المَدّ)は三つあり、ファトハの後の無音のAlif、ダンマの後の無音のWaw、カスラの後の無音のYaです。三つとも﴿نُوحِيهَآ﴾ (Hud 11:49)に現れます。***Lin***(اللِّين)の文字はファトハの後の無音のWawまたはYaです。

マッドは拍（حركة）で測ります。これは中くらいの速さで指を一本曲げる、または伸ばす時間です。本当の基準は機械的に数えることではなく、師から学ぶことです。マッドには***Madd Asli***(المَدّ الأَصْلِيّ)と***Madd Far'i***(المَدّ الفَرْعِيّ)があります。



薄い部分は、許される他の長さを示します。

14.2 Madd Asli（Tabi'i）

これがなければ文字そのものが成り立たないマッドで、Hamzahやスクーンなどの原因を必要としません。続けて読むときも止まるときも2拍です。これに付随するものとして次があります。

- ***Madd al-'Iwad***(مَدّ العِوَض)：ファトハのTanwinで止まるとき、それをAlifに変えること。﴿عَلِيمًا﴾ ﴿حَكِيمًا﴾ (An-Nisa 4:17)で止まる場合のとおりです。

- ***Silah Sughra*** (الصِّلَة الصُّغْرَى)：後にHamzahがなく、母音のある二文字の間にある代名詞のHa'を伸ばすこと。﴿إِنَّهُۥ هُوَ﴾ (Al-Isra 17:1)のとおりです。詳細はHa' al-Kinayahの章にあります。
- ***Madd at-Tamkin*** (مَدّ التَّمْكِين)：カスラを伴う重子音のYaの後のマッドのYa。﴿حُيِّيتُم﴾ (An-Nisa 4:86)のとおりです。
- حيٌّ طَهُرَ にまとめられたスーラの冒頭文字（下で説明）。

14.3 Hamzahによるマッド

Madd Muttasil（必須）

Madd Muttasil (المَدّ المُتَّصِل)：同じ語の中でマッドの文字の後にHamzahが来るもの。必須であり、シャーティビーヤ経路のハフスでは長さは4拍または5拍です。語末のHamzahで止まるときは、4、5、6拍が許されます。

Madd Muttasil

مِنَ السَّمَآءِ Al-Baqarah 2:19	اِذَا جَآءَ An-Nasr 110:1
وَسَآءَ سَبِيْلًا An-Nisa 4:22	سِيٓءَ بِهِمْ Hud 11:77

Madd Munfasil（許容）

Madd Munfasil (المَدّ المُنْفَصِل)：マッドの文字が語を終え、Hamzahが次の語を始めるもの。シャーティビーヤ経路のハフスでは4拍または5拍で、***Tayyibat an-Nashr*** (طَيِّبَة النَّشْر)経路では2拍に縮めることもできます（参考情報のみ。本書の実践はシャーティビーヤに従います）。読誦者は一貫していなければならず、選んだ長さを同じ読誦のすべてのMunfasilで保ち、Muttasilより長くしてはなりません。

Madd Munfasil

بِمَآ اُنْزِلَ Al-Baqarah 2:4	قُوٓا اَنْفُسَكُمْ At-Tahrim 66:6
وَفِيٓ اَنْفُسِكُمْ ؕ Adh-Dhariyat 51:21	مَالَهٗٓ اَخْلَدَهٗ Al-Humazah 104:3 Munfasilと同様に扱うSilah Kubra

Madd al-Badal

Madd al-Badal (مَدّ البَدَل)：Hamzahがマッドの文字の前に来るもの。多くはマッドの文字に変わったHamzahです。ハフスでは2拍のみです。

Madd al-Badal

الَّذِيْنَ اُوْتُوا Al-Baqarah 2:101	اِيْمَانًاۖ Ali 'Imran 3:173	وَالَّذِيْنَ اٰمَنُوْاۚ Al-Baqarah 2:9

14.4 スクーンによるマッド

Madd Lazim

Madd Lazim (المَدّ اللَّازِم)：続けて読むときも止まるときも存在する本来のスクーンがマッドの文字の後に来るもの。詩人は「マッドの文字の後に両方の状態でスクーンが来ればLazimであり、十分に伸ばされる」と言います。長さはすべての読誦者で6拍です。四種類あります。

種類	定義	例
Lazim Kalimi Muthaqqal (اللَّازِم الكَلِمِيّ المُثَقَّل)	語の中で、同化したスクーン（重子音）	﴿الضَّآلِّيْنَ﴾ (Al-Fatihah 1:7) ﴿الطَّآمَّةُ﴾ (An-Nazi'at 79:34)
Lazim Kalimi Mukhaffaf (اللَّازِم الكَلِمِيّ المُخَفَّف)	語の中で、同化しないスクーン	﴿آٰلْـٰٔنَ﴾ (Yunus 10:51)
Lazim Harfi Muthaqqal (اللَّازِم الحَرْفِيّ المُثَقَّل)	スーラの冒頭文字で、次の文字に同化するスクーン	﴿الٓمّٓ ۝١﴾ (Al-Baqarah 2:1)
Lazim Harfi Mukhaffaf (اللَّازِم الحَرْفِيّ المُخَفَّف)	冒頭文字で、同化しないスクーン	﴿قٓ﴾ (Qaf 50:1) ﴿الٓمٓ ۝١﴾ (Al-Baqarah 2:1)

「الم」では、Lamは「لام」という名のMimが「ميم」のMimに同化するのでLazim Harfi Muthaqqalであり、最後のMimはLazim Harfi Mukhaffafです。

スーラの冒頭文字

スーラの冒頭の離れ文字は十四あり、نَصٌّ حَكِيمٌ قَاطِعٌ لَهُ سِرٌّにまとめられます。マッドの点から次のグループに分かれます。

グループ	文字	詳細	拍
マッドなし	ا	Alif（綴り上の名にマッドの文字がないため）	0
2拍	حَيٌّ طَهُرَ	名が二文字の文字：*ha, ya, ta, ha, ra*	2

グループ	文字	詳細	拍
6拍	نَقَصَ عَسَلُكُمْ	三文字の名の中央にマッドの文字がある文字	6
'Ayn	ع	*Kaf Ha Ya 'Ayn Sad*と*'Ayn Sin Qaf*では4拍または6拍；6拍が優先されます	4 / 6

﴿الٓمٓ ۝١﴾ (Ali 'Imran 3:1) ﴿ٱللَّهُ﴾ (Ali 'Imran 3:2)では、Mimをアッラーの御名につなげるとファトハが付きます。本来のスクーンを考慮して6拍、一時的な母音を考慮して2拍が許されます。

Madd 'Arid li-s-Sukun

Madd 'Arid li-s-Sukun(المَدّ العَارِض لِلسُّكُون)：停止によって生じた一時的なスクーンがマッドの文字の後に来るもの。2、4、6拍の三つの長さが許されます。読誦者は一つの読誦の中では一つの長さを守るべきです。続けて読むときは自然なマッドに戻ります。

停止時

الرَّحِيمِ
Al-Fatihah 1:3

نَسْتَعِينُ
Al-Fatihah 1:5

لِلْمُتَّقِينَ
Al-Baqarah 2:2

Madd al-Lin

Madd al-Lin(مَدّ اللِّين)：停止時の一時的なスクーンがLinの文字の後に来るもの。停止時には'Aridと同じく2、4、6拍が許されます。続けて読むときは伸ばしません。

停止時のMadd al-Lin

الْبَيْتِ
Quraysh 106:3

خَوْفٍ
Quraysh 106:4

14.5 Madd al-Farq

Madd al-Farq(مَدّ الفَرْق)：疑問のHamzahが、Hamzat al-Waslと定冠詞で始まる名詞の前に来るとき、Hamzat al-Waslは落とされません。好まれるのは6拍のAlifに変える方法で、HamzahとAlifの中間に軽くする方法もあります。疑問文と平叙文を区別するためこう呼ばれます。三語六箇所にあり、アル＝アンアーム章の﴿ءَٱلذَّكَرَيْنِ﴾ (Al-An'am 6:143)（二回）、ユーヌス章の﴿ءَآلْـَٰٔنَ﴾ (Yunus 10:51)（二回）、ユーヌス章とアン＝ナムル章の﴿قُلْ ءَآللَّهُ﴾ (Yunus 10:59)です。

14.6 マッドの強さ

最も強いマッドはLazim、次にMuttasil、次に'Arid、次にMunfasil、次にBadalです。一つのマッドに二つの原因が重なると、強い方を適用し弱い方は捨てます。﴿وَلَآ ءَآمِّينَ﴾ (Al-Ma'idah 5:2)では、マッドの文字

の前にHamzah（Badal）、後に本来のスクーンがあるため、6拍伸ばします。

規則のまとめ

Tabi'i 2。Muttasil 4または5（語末のHamzahで止まるときは6も）。Munfasil 4または5。Badal 2。Lazim 6。停止時の'AridとLin 2、4、6。マルヤム章とアッ＝シューラー章冒頭の'Ayn 4または6、6拍が優先されます。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 69 から 72; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب المد والقصر; Ibn al-Jazari, *at-Tamhid fi 'Ilm at-Tajwid*: باب المد; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: المد والقصر وأقسامهما.

章 15

Ha' al-Kinayah：代名詞のHa'

Ha' al-Kinayah (هَاء الكِنَايَة)は、名詞・動詞・小辞に付き、不在の単数男性を指す付加的なHa'です。これを伸ばすことを***Silah*** (الصِّلَة)といい、一定の条件のもとで、ダンマのHa'の後には小さなWawが、カスラのHa'の後には小さなYaが付きます。

15.1 四つの状況

状況	規則	例
母音のある二文字の間	伸ばす：2拍のSilah Sughra。後にHamzahがあれば4または5拍のSilah Kubra	﴿إِنَّهُۥ هُوَ﴾ (Al-Isra 17:1) ﴿مَالَهُۥٓ أَخۡلَدَهُۥ﴾ (Al-Humazah 104:3)
無音の二文字の間	伸ばさない	﴿فِيهِ ٱلۡقُرۡءَانُ﴾ (Al-Baqarah 2:185)
前に母音、後に無音	伸ばさない	﴿لَهُ ٱلۡمُلۡكُ﴾ (At-Taghabun 64:1)
前に無音、後に母音	ハフスでは伸ばさない	﴿فِيهِۚ هُدٗى﴾ (Al-Baqarah 2:2)

規則：Ha'は母音のある二文字の間にあるときに伸ばし、それ以外では伸ばしません。停止時にSilahは決してなく、無音のHa'で止まります。

15.2 ハフスにおける例外

- ﴿يَرۡضَهُ لَكُمۡ﴾ (Az-Zumar 39:7)：Ha'は母音のある二文字の間にありますが伸ばさず、短いダンマのみです。
- アル＝アアラーフ章とアッ＝シュアラー章の﴿أَرۡجِهۡ﴾ (Al-A'raf 7:111)、そして﴿فَأَلۡقِهۡ﴾ (An-Naml 27:28)：Ha'は無音です。
- ﴿فِيهِۦ مُهَانًا﴾ (Al-Furqan 25:69)：前に無音の文字がありますが、伸ばします。
- ﴿وَيَتَّقۡهِ﴾ (An-Nur 24:52)：無音のQafの後で、Ha'はSilahなしのカスラを持ちます。
- ﴿أَنسَىٰنِيهُ﴾ (Al-Kahf 18:63)と﴿عَلَيۡهُ ٱللَّهَ﴾ (Al-Fath 48:10)：ハフスでは、通常のカスラと異なり、Ha'はダンマです。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب هاء الكناية; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: هاء الكناية وأحكامها.

章 16

Hamzat al-WaslとHamzat al-Qat'

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

١٠١ وَابْدَأْ بِهَمْزِ الْوَصْلِ مِنْ فِعْلٍ بِضَمّْ — إِنْ كَانَ ثَالِثٌ مِنَ الْفِعْلِ يُضَمّْ

١٠٢ وَاكْسِرْهُ حَالَ الْكَسْرِ وَالْفَتْحِ وَفِي — الَاسْمَاءِ غَيْرَ اللَّامِ كَسْرُهَا وَفِي

١٠٣ ابْنٍ مَعَ ابْنَةِ امْرِئٍ وَاثْنَيْنِ — وَامْرَأَةٍ وَاسْمٍ مَعَ اثْنَتَيْنِ

16.1 定義

Hamzat al-Qat'(هَمْزَة القَطْع)は読み始めでもつなげて読むときでも発音されます。インド・パキスタン版のムスハフでは、﴿اَنْعَمْتَ﴾ (Al-Fatihah 1:7)のように、母音を伴うAlifとして書かれます。***Hamzat al-Wasl***(هَمْزَة الوَصْل)は無音の文字から読み始めるための付加のハムザで、読み始めでは発音され、つなげて読むときには落ちます。このムスハフでは、母音も記号もない単なるAlifです。

16.2 現れる場所と読み始めの母音

場所	読み始めの母音	例
定冠詞	常にファトハ	﴿اَلْحَمْدُ﴾ (Al-Fatihah 1:2)
動詞：三語根動詞の命令形、五文字・六文字動詞の完了形・命令形・動名詞	動詞の第三文字に本来のダンマがあればダンマ、カスラまたはファトハがあればカスラ	﴿ادْخُلُوْا﴾ (Al-Baqarah 2:58) ﴿اضْرِبْ﴾ (Al-Baqarah 2:60) ﴿اِذْهَبْ﴾ (Taha 20:24) ﴿وَاسْتَغْفِرْهُ﴾ (An-Nasr 110:3)
伝承された十の名詞、および五文字・六文字動詞の動名詞	カスラ	﴿ابْنُ مَرْيَمَ﴾ (An-Nisa 4:171) ﴿ابْنَتَ عِمْرٰنَ﴾ (At-Tahrim 66:12) ﴿امْرُؤٌا﴾ (An-Nisa 4:176) ﴿اثْنٰنِ﴾ (Al-Ma'idah 5:106) ﴿اسْمَ﴾ (Al-A'la 87:1)

詩人が挙げた名詞は次のとおりです：ابن، ابنة، امرؤ، اثنان، امرأة، اسم، اثنتان。第三文字に一時的なダンマがある動詞は例外でカスラから始まります。﴿امْشُوْا﴾ (Sad 38:6)、﴿اقْضُوْٓا﴾ (Yunus 10:71)、﴿ائْتُوْا﴾ (Taha 20:64)、﴿ابْنُوْا﴾ (Al-Kahf 18:21)などで、第三文字の本来の母音がカスラだからです。

補足

﴿بِئْسَ الِاسْمُ﴾ (Al-Hujurat 49:11)でالاسمから読み始める場合、二通りが許されます。Hamzat al-Waslを伴うاِلْاِسْمُ、またはそれなしのلِسْمُで、前者が好まれます。

16.3 二つの無音の文字の出会い

マッドの文字がHamzat al-Waslの前にある場合、続けて読むときは発音から落ちますが、書記上は残ります。﴿وَقَالُوا اتَّخَذَ﴾ (Al-Baqarah 2:116)や﴿فِي الْأَرْضِ ۙ﴾ (Al-Baqarah 2:11)のとおりです。前に無音の子音やTanwinがある場合は、通常カスラが付きます（﴿نُوحٌ ابْنَهُ﴾ (Hud 11:42)）。複数のMimには、前述のとおりダンマが付きます。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句101から103; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب همز الوصل; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: همزة الوصل وهمزة القطع.

章 17

WaqfとIbtida'：止まることと始めること

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٧٣ وَبَعْدَ تَجْوِيدِكَ لِلْحُرُوفِ — لَا بُدَّ مِنْ مَعْرِفَةِ الْوُقُوفِ

٧٤ وَالِابْتِدَاءِ وَهْيَ تُقْسَمُ إِذَنْ — ثَلَاثَةٌ تَامٌّ وَكَافٍ وَحَسَنْ

٧٥ وَهْيَ لِمَا تَمَّ فَإِنْ لَمْ يُوجَدِ — تَعَلُّقٌ أَوْ كَانَ مَعْنًى فَابْتَدِي

٧٦ فَالتَّامُّ فَالْكَافِي وَلَفْظًا فَامْنَعَنْ — إِلَّا رُؤُوسَ الْآيِ جَوِّزْ فَالْحَسَنْ

٧٧ وَغَيْرُ مَا تَمَّ قَبِيحٌ وَلَهُ — يُوقَفُ مُضْطَرًّا وَيُبْدَا قَبْلَهُ

٧٨ وَلَيْسَ فِي الْقُرْآنِ مِنْ وَقْفٍ وَجَبْ — وَلَا حَرَامٍ غَيْرَ مَا لَهُ سَبَبْ

詩人は「文字を完成させた後は、止まる所と始める所を知らねばならない」と言います。どこで止まりどこから始めるかを知ることはタジュウィードを完成させます。それが意味を守るからです。*Waqf*（الوَقْف）は、続ける意図をもって、普通の一呼吸のあいだ語の上で音を断つことです。*Sakt*（السَّكْت）は息継ぎをしない短い中断です。*Qat'*（القَطْع）は読誦を終えることです。*Ibtida'*（الابْتِدَاء）は中断や停止の後に読誦を始めることです。

17.1 停止の種類

種類	意味	法的位置づけ
Waqf Idtirari（الوَقْف الاضْطِرَارِيّ）	息切れ、くしゃみ、度忘れによってやむを得ず止まる	どの語でも許される。その後、適切な所から読み直す
Waqf Intizari（الوَقْف الانْتِظَارِيّ）	教授の際に読み方をまとめるため	教授のために許される
Waqf Ikhtibari（الوَقْف الاخْتِبَارِيّ）	試験で、語の書き方や読み方を示すため	許される。つなげて書く語と離して書く語の規則に関わる
Waqf Ikhtiyari（الوَقْف الاخْتِيَارِيّ）	読誦者が自由に選ぶ	下のとおり四種類

17.2 選択による停止の四種類

停止の前の語を見ます。意味が完結し、後続と語句の面でも意味の面でもつながりがなければ**Tamm**、意味の面でのみつながっていれば**Kafi**、語句の面でつながっていれば**Hasan**、意味が不完全なら**Qabih**です。

種類	停止と開始	例
Waqf Tamm (الوَقْف التَّامّ)	止まってその後から始めてよい。節の終わりや物語の終わりに多い	﴿وَأُولَٰئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ﴾ (Al-Baqarah 2:5) ثم ﴿إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا﴾ (Al-Baqarah 2:6)
Waqf Kafi (الوَقْف الكَافِي)	止まってその後から始めてよい	﴿لَا يُؤْمِنُونَ﴾ (Al-Baqarah 2:6) ثم ﴿خَتَمَ اللَّهُ﴾ (Al-Baqarah 2:7)
Waqf Hasan (الوَقْف الحَسَن)	そこで止まってよいが、その後から始めるのは不可。ただし節の終わりは別	﴿الْحَمْدُ لِلَّهِ﴾ (Al-Fatihah 1:2)
Waqf Qabih (الوَقْف القَبِيح)	故意に行わない。やむを得ず止まったら戻って読み直す	﴿لَا تَقْرَبُوا الصَّلَاةَ﴾ (An-Nisa 4:43) ﴿وَمَا مِنْ إِلَٰهٍ﴾ (Ali 'Imran 3:62)

詩人は***Ru'us al-Ay*** (رُؤُوس الآي)を例外とし、いかなる場合もそこで止まることを認めました。ウンム・サラマのハディースにあるとおり、預言者ﷺは一節ずつ区切って読誦されたからです。また詩人は「クルアーンには、理由がない限り、義務の停止も禁止の停止もない」と述べています。読誦者が誤った意味を意図しない限り、どの停止も、することもしないことも、それ自体は罪ではありません。

17.3 開始

開始は常に選択によるので、それ自体で意味が成り立つ語からのみ始めます。悪い開始とは誤った意味を示唆するもので、﴿يَدُ اللَّهِ مَغْلُولَةٌ﴾ (Al-Ma'idah 5:64)や﴿اتَّخَذَ اللَّهُ وَلَدًا﴾ (Al-Baqarah 2:116)から始めるようなものです。

17.4 インド・パキスタン版ムスハフの停止記号

インド・パキスタン版の停止記号はマディーナ版より多く、内容も異なります。表の例はすべて、ムスハフそのものの本文から自動的に見つけたものです。

記号	意味	ムスハフからの例
م	**Mim:** 必須の停止：続けると誤った意味を示唆しかねないため、ここで止まらねばならない	فَانْتَقَمْنَا مِنْهُمْ (Al-Hijr 15:79)
ط	**Ta':** 絶対的な停止：ここで止まるべき	مُحَمَّدٌ رَّسُولُ اللَّهِ (Al-Fath 48:29)

記号	意味	ムスハフからの例
ج	**Jim:** 許容の停止：止まる方がよいが、続けることも可	ظُلُمٰتٌ وَّرَعۡدٌ وَّبَرۡقٌ ۚ (Al-Baqarah 2:19)
ز	**Zay:** 容認の停止：止まることも可だが、続ける方がよい	الۡـٰٔنَ حَصۡحَصَ الۡحَقُّ ۫ (Yusuf 12:51)
ص	**Sad:** 免許の停止：続けて読むが、息継ぎなど必要なときは止まってよい	مَتَاعٌ قَلِيۡلٌ ۖ (An-Nahl 16:117)
صلے	**Sila:** 続ける方がよい	بِمَا فِىۡۤ اَنۡفُسِهِمۡ ۖ (Hud 11:31)
ق	**Qaf:** ここで止まってよいと言う者もいるが、続ける方がよい	هُدًى مِّنۡ رَّبِّهِمۡ ۙ (Al-Baqarah 2:5)
قف	**Qif:** 止まれ：止まる方がよい	قٓ ۚ (Qaf 50:1)
لا	**La:** 止まらない。節の終わりでは止まってよい	فِىۡ قُلُوۡبِهِمۡ مَّرَضٌ ۙ (Al-Baqarah 2:10)
سكتة	**Saktah:** 息継ぎなしの軽い休止	وَقِيۡلَ مَنۡ ۜ رَاقٍ (Al-Qiyamah 75:27)
وقفة	**Waqfah:** Saktahより長い、息継ぎなしの休止	بِمَاۤ اٰتَيۡنٰهُمۡ ؕ فَتَمَتَّعُوۡا ۟ (Ar-Rum 30:34)

補足

これらの意味はインド・パキスタン版の「ルムーズ・アル＝アウカーフ」のページに記されているもので、刷によってわずかに異なるものもあります。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 73 から 78; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الوقف والابتداء; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: الوقف والابتداء وعلامات الوقف.

章 18

語末での止まり方

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

١٠٤ وَحَاذِرِ الْوَقْفَ بِكُلِّ الْحَرَكَهْ إِلَّا إِذَا رُمْتَ فَبَعْضُ الْحَرَكَهْ

١٠٥ إِلَّا بِفَتْحٍ أَوْ بِنَصْبٍ وَأَشِمّْ إِشَارَةً بِالضَّمِّ فِي رَفْعٍ وَضَمّْ

母音のある語で止まる基本の方法は純粋な***Sukun***(السُّكُون)で、完全な母音で止まることは決してありません。***Rawm***(الرَّوْم)と***Ishmam***(الإِشْمَام)もそれぞれの条件で許されます。止まり方は次のとおりです。

方法	やり方	適用対象
純粋なスクーン	母音を完全に取り去る	三つの母音すべて
Rawm	母音の一部（約三分の一）を、近くの人に聞こえる程度の弱い声で発音する	ダンマとカスラ。ファトハは不可
Ishmam	スクーンの直後に、ダンマを示すため音を出さずに唇を丸める	ダンマのみ
Ibdal(الإِبْدَال)	ファトハのTanwinをAlifに、Ta' Marbutahを無音のHa'に変える	ファトハのTanwinとTa' Marbutah

停止時

نَسْتَعِيْنُ
Al-Fatihah 1:5
Sukun、Rawm、またはIshmam

الرَّحِيْمِ
Al-Fatihah 1:3
SukunまたはRawm。Ishmamは不可

الْعٰلَمِيْنَ
Al-Fatihah 1:2
ファトハなので、スクーンのみ

الْجَنَّةَ
Al-Baqarah 2:35
無音のHa'になる：スクーンのみ

18.1 RawmとIshmamを用いない所

- Ha'として止まるTa' Marbutah。﴿الْجَنَّةَ﴾ (Al-Baqarah 2:35)のとおり。
- 複数のMim。﴿عَلَيْهِمْ﴾ (Al-Fatihah 1:7)、﴿عَلَيْهِمُ الذِّلَّةُ﴾ (Al-Baqarah 2:61)のとおり。
- 一時的な母音。﴿قُمِ الَّيْلَ﴾ (Al-Muzzammil 73:2)でقمに止まる場合のとおり。

- ファトハの文字。

18.2 書記に従った停止

停止は***Rasm 'Uthmani***(الرَّسْم العُثْمَانِيّ)に従います。書かれているものは停止時に発音し、省かれているものは省きます。そのため ﴿لٰكِنَّا۠﴾ (Al-Kahf 18:38)、 ﴿الظُّنُوْنَا﴾ (Al-Ahzab 33:10)、 ﴿الرَّسُوْلَا﴾ (Al-Ahzab 33:66)、 ﴿السَّبِيْلَا﴾ (Al-Ahzab 33:67)、 ﴿اِنِّيْٓ اَنَا﴾ (Taha 20:12)では、続けて読むときには落ちるAlifを付けて止まります。書記上Yaが省かれている語は、 ﴿يَسْرِ﴾ (Al-Fajr 89:4)のようにYaなしで止まります。ハフスでは ﴿اٰتٰنِۦَ اللّٰهُ﴾ (An-Naml 27:36)が例外で、停止時には無音のYaを付ける方法と付けない方法の二通りがあります。

﴿سَلٰسِلَا۟﴾ (Al-Insan 76:4)では停止時に二通りあり、Alifを付けるかスクーンにするかです。一つ目の ﴿قَوَارِيْرَا۟﴾ (Al-Insan 76:15)はAlifを付けて、二つ目の ﴿قَوَارِيْرَا۟﴾ (Al-Insan 76:16)はスクーンで止まります。

> **補足**
>
> インド・パキスタン版のムスハフでは、1つ目と2つ目の ﴿قَوَارِيْرَا۟﴾ (Al-Insan 76:15)のAlifに同じ記号（直立した長方形のゼロ）が付いていますが、上で説明したとおり規則は異なります。 ﴿الظُّنُوْنَا﴾ (Al-Ahzab 33:10)、 ﴿الرَّسُوْلَا﴾ (Al-Ahzab 33:66)、 ﴿السَّبِيْلَا﴾ (Al-Ahzab 33:67)のAlifには記号がまったくありませんが、停止するときには発音されます。したがって「記号のない文字は発音しない」という規則はここには当てはまらず、ここに述べたとおりに読みます。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句104から105; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الوقف على أواخر الكلم وباب الوقف على مرسوم الخط; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: كيفية الوقف والروم والإشمام.

章 19

Maqtu'とMawsul：離して書く語とつなげて書く語

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٧٩ وَاعْرِفْ لِمَقْطُوعٍ وَمَوْصُولٍ وَتَا — فِي مُصْحَفِ الْإِمَامِ فِيمَا قَدْ أَتَى

٨٠ فَاقْطَعْ بِعَشْرِ كَلِمَاتٍ أَنْ لَا — مَعْ مَلْجَإٍ وَلَا إِلَهَ إِلَّا

٨١ وَتَعْبُدُوا يَاسِينَ ثَانِي هُودَ لَا — يُشْرِكْنَ تُشْرِكْ يَدْخُلْنَ تَعْلُوا عَلَى

٨٢ أَنْ لَا يَقُولُوا لَا أَقُولَ إِنْ مَا — بِالرَّعْدِ وَالْمَفْتُوحَ صِلْ وَعَنْ مَا

٨٣ نُهُوا اقْطَعُوا مِنْ مَا بِرُومٍ وَالنِّسَا — خُلْفُ الْمُنَافِقِينَ أَمْ مَنْ أَسَّسَا

٨٤ فُصِّلَتِ النِّسَا وَذِبْحٍ حَيْثُ مَا — وَأَنْ لَمِ الْمَفْتُوحَ كَسْرُ إِنَّ مَا

٨٥ الْأَنْعَامَ وَالْمَفْتُوحَ يَدْعُونَ مَعَا — وَخُلْفُ الْأَنْفَالِ وَنَحْلٍ وَقَعَا

٨٦ وَكُلِّ مَا سَأَلْتُمُوهُ وَاخْتُلِفْ — رُدُّوا كَذَا قُلْ بِئْسَمَا وَالْوَصْلَ صِفْ

٨٧ خَلَفْتُمُونِي وَاشْتَرَوْا فِي مَا اقْطَعَا — أُوحِيَ أَفَضْتُمْ اشْتَهَتْ يَبْلُو مَعَا

٨٨ ثَانِي فَعَلْنَ وَقَعَتْ رُومٌ كِلَا — تَنْزِيلُ شُعَرَا وَغَيْرَهَا صِلَا

٨٩ فَأَيْنَمَا كَالنَّحْلِ صِلْ وَمُخْتَلِفْ — فِي الشُّعَرَا الْأَحْزَابِ وَالنِّسَا وُصِفْ

٩٠ وَصِلْ فَإِلَّمْ هُودَ أَلَّنْ نَجْعَلَا — نَجْمَعَ كَيْلَا تَحْزَنُوا تَأْسَوْا عَلَى

٩١ حَجٌّ عَلَيْكَ حَرَجٌ وَقَطْعُهُمْ — عَنْ مَنْ يَشَاءُ مَنْ تَوَلَّى يَوْمَ هُمْ

٩٢ وَمَالِ هَذَا وَالَّذِينَ هَؤُلَا — تَحِينَ فِي الْإِمَامِ صِلْ وَوُهِّلَا

٩٣ وَوَزَنُوهُمْ وَكَالُوهُمْ صِلِ — كَذَا مِنَ الْ وَيَا وَهَا لَا تَفْصِلِ

Maqtu'（المَقْطُوع）の語はムスハフで次の語と離して書かれ、***Mawsul***（المَوْصُول）の語は次の語とつなげて書かれます。これは***Waqf Ikhtibari***（الوَقْف الاخْتِبَارِيّ）（書記を示すための停止、またはやむを得ない停止）に関わります。離して書かれた語では前半で止まることができ、つなげて書かれた語では末尾でのみ止まります。続けて読むときには影響はありません。

以下は詩人が挙げた主な語です。各例の横の表示は、この版で用いたムスハフの本文から自動的に抽出したもので、ムスハフそのものの書記を示しています。

語	規則	ムスハフからの例
أن لا	十か所で分離、それ以外は連結	اَنْ لَّآ اَقُوْلَ Al-A'raf 7:105: 分離 اَنْ لَّا يَقُوْلُوْا Al-A'raf 7:169: 分離 اَنْ لَّا مَلْجَاَ At-Tawbah 9:118: 分離 وَاَنْ لَّآ اِلٰهَ Hud 11:14: 分離 اَنْ لَّا تَعْبُدُوْٓا Hud 11:26: 分離 اَنْ لَّا تُشْرِكْ Al-Hajj 22:26: 分離 اَنْ لَّا تَعْبُدُوا Ya-Sin 36:60: 分離 وَّاَنْ لَّا تَعْلُوْا Ad-Dukhan 44:19: 分離 اَنْ لَّا يُشْرِكْنَ Al-Mumtahanah 60:12: 分離 اَنْ لَّا يَدْخُلَنَّهَا Al-Qalam 68:24: 分離 اَلَّا تَعْلُوْا An-Naml 27:31: 連結
إن ما	ラアド章でのみ分離	وَاِنْ مَّا نُرِيَنَّكَ Ar-Ra'd 13:40: 分離 وَاِمَّا نُرِيَنَّكَ Yunus 10:46: 連結
عن ما	アアラーフ章でのみ分離	عَنْ مَّا نُهُوْا Al-A'raf 7:166: 分離 عَمَّا تَعْمَلُوْنَ Al-Baqarah 2:74: 連結
من ما	ニサー章とルーム章で分離。ムナーフィクーン章では見解が分かれる	فَمِنْ مَّا مَلَكَتْ An-Nisa 4:25: 分離 مِنْ مَّا مَلَكَتْ Ar-Rum 30:28: 分離 مِنْ مَّا رَزَقْنٰكُمْ Al-Munafiqun 63:10: 分離 وَمِمَّا رَزَقْنٰهُمْ Al-Baqarah 2:3: 連結
أم من	四か所で分離	اَمْ مَّنْ يَّكُوْنُ An-Nisa 4:109: 分離 اَمْ مَّنْ اَسَّسَ At-Tawbah 9:109: 分離 اَمْ مَّنْ خَلَقْنَاۗ As-Saffat 37:11: 分離 اَمْ مَّنْ يَّاْتِيْٓ Fussilat 41:40: 分離 اَمَّنْ خَلَقَ An-Naml 27:60: 連結
حيث ما	常に分離	وَحَيْثُ مَا كُنْتُمْ Al-Baqarah 2:144: 分離
أن لم	常に分離	اَنْ لَّمْ يَكُنْ Al-An'am 6:131: 分離

語	規則	ムスハフからの例
إن ما (المكسورة المشددة)	アンアーム章では分離、ナフル章では異説あり	اِنَّ مَا تُوْعَدُوْنَ Al-An'am 6:134: 分離 اِنَّمَا نَحْنُ Al-Baqarah 2:11: 連結 اِنَّمَا عِنْدَ اللّٰهِ An-Nahl 16:95: 連結
أن ما (المفتوحة المشددة)	ハッジ章とルクマーン章で分離。アンファール章では見解が分かれる	وَاَنَّ مَا يَدْعُوْنَ Al-Hajj 22:62: 分離 وَاَنَّ مَا يَدْعُوْنَ Luqman 31:30: 分離 اَنَّمَا غَنِمْتُمْ Al-Anfal 8:41: 連結
كل ما	イブラーヒーム章で分離。ニサー章などいくつかの箇所では見解が分かれる	كُلِّ مَا سَاَلْتُمُوْهُ ؕ Ibrahim 14:34: 分離 كُلَّمَا رُدُّوْٓا An-Nisa 4:91: 連結 كُلَّمَآ اَضَآءَ Al-Baqarah 2:20: 連結
بئس ما	バカラ章90節とアアラーフ章で連結。バカラ章93節では見解が分かれる。それ以外は分離	بِئْسَمَا اشْتَرَوْا Al-Baqarah 2:90: 連結 بِئْسَمَا خَلَفْتُمُوْنِيْ Al-A'raf 7:150: 連結 لَبِئْسَ مَا كَانُوْا Al-Ma'idah 5:62: 分離
في ما	十一か所で分離、それ以外は連結	فِيْ مَا فَعَلْنَ Al-Baqarah 2:240: 分離 فِيْ مَآ اُوْحِيَ Al-An'am 6:145: 分離 فِيْ مَا لَا تَعْلَمُوْنَ Al-Waqi'ah 56:61: 分離 فِيْمَا كَانُوْا Al-Baqarah 2:113: 連結
أين ما	バカラ章115節とナフル章で連結。それ以外は分離で、三か所に相違がある	فَاَيْنَمَا تُوَلُّوْا Al-Baqarah 2:115: 連結 اَيْنَمَا يُوَجِّهْهُّ An-Nahl 16:76: 連結 اَيْنَ مَا تَكُوْنُوْا Al-Baqarah 2:148: 分離
إن لم	フード章14節でのみ連結	فَاِلَّمْ يَسْتَجِيْبُوْا Hud 11:14: 連結
أن لن	カハフ章とキヤーマ章で連結	اَلَّنْ نَّجْعَلَ Al-Kahf 18:48: 連結 اَلَّنْ نَّجْمَعَ Al-Qiyamah 75:3: 連結
كي لا	四か所で連結、それ以外は分離	لِكَيْلَا تَحْزَنُوْا Ali 'Imran 3:153: 連結 لِكَيْلَا يَعْلَمَ Al-Hajj 22:5: 連結 لِكَيْلَا يَكُوْنَ Al-Ahzab 33:50: 連結 لِّكَيْلَا تَاْسَوْا Al-Hadid 57:23: 連結 لِكَيْ لَا يَعْلَمَ An-Nahl 16:70: 分離

語	規則	ムスハフからの例
عن من	ヌール章とナジュム章で分離	عَنۡ مَّنۡ يَّشَآءُ ؕ An-Nur 24:43: 分離 عَنۡ مَّنۡ تَوَلّٰىۙ۝ An-Najm 53:29: 分離
يوم هم	ガーフィル章とザーリヤート章で分離	يَوۡمَ هُمۡ بَارِزُوۡنَ ۚ Ghafir 40:16: 分離 يَوۡمَ هُمۡ عَلَى Adh-Dhariyat 51:13: 分離
مال	Lamが後続から離して書かれている所が四か所ある	فَمَالِ هٰٓؤُلَآءِ An-Nisa 4:78: 分離 مَالِ هٰذَا الۡكِتٰبِ Al-Kahf 18:49: 分離 مَالِ هٰذَا الرَّسُوۡلِ Al-Furqan 25:7: 分離 فَمَالِ الَّذِيۡنَ Al-Ma'arij 70:36: 分離
كالوهم ووزنوهم	両方とも連結	كَالُوۡهُمۡ اَوۡ وَّزَنُوۡهُمۡ Al-Mutaffifin 83:3: 連結

補足

写本によって異なる箇所では、ここで用いたムスハフは二通りのうち一方に従っており、試験の停止はその書記に従います。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 79 から 93; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الوقف على مرسوم الخط; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: المقطوع والموصول.

章 20

開いたTa：Taで書かれる女性形語尾

アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤより

٩٤ وَرَحْمَتُ الزُّخْرُفِ بِالتَّا زَبَرَهْ — الَاعْرَافِ رُومٍ هُودٍ كَافِ الْبَقَرَهْ

٩٥ نِعْمَتُهَا ثَلَاثُ نَحْلٍ إِبْرَهَمْ — مَعًا أَخِيرَاتُ عُقُودُ الثَّانِ هَمّْ

٩٦ لُقْمَانُ ثُمَّ فَاطِرٌ كَالطُّورِ — عِمْرَانَ لَعْنَتَ بِهَا وَالنُّورِ

٩٧ وَامْرَأَتُ يُوسُفَ عِمْرَانَ الْقَصَصْ — تَحْرِيمَ مَعْصِيَتْ بِقَدْ سَمِعْ يُخَصّْ

٩٨ شَجَرَتَ الدُّخَانِ سُنَّتْ فَاطِرِ — كُلًّا وَالَانْفَالِ وَحَرْفِ غَافِرِ

٩٩ قُرَّتُ عَيْنٍ جَنَّتٌ فِي وَقَعَتْ — فِطْرَتْ بَقِيَّتْ وَابْنَتْ وَكَلِمَتْ

١٠٠ أَوْسَطَ الَاعْرَافِ وَكُلُّ مَا اخْتُلِفْ — جَمْعًا وَفَرْدًا فِيهِ بِالتَّاءِ عُرِفْ

名詞の女性形語尾は通常 ***Ta' Marbutah*** (التَّاء المَرْبُوطَة)（ة）で書かれ、停止時にはHa'として発音されます。ムスハフの特定の箇所では ***Ta' Maftuhah*** (التَّاء المَفْتُوحَة)（ت）で書かれ、ハフスは書記に従ってそこでTaで止まります。詩人がまとめた箇所は次のとおりです。

語	箇所	場所	例
رحمت	7	Al-Baqarah 2:218, Al-A'raf 7:56, Hud 11:73, Maryam 19:2, Ar-Rum 30:50, Az-Zukhruf 43:32 (2回)	رَحْمَتَ اللهِ ۖ
نعمت	11	Al-Baqarah 2:231, Ali 'Imran 3:103, Al-Ma'idah 5:11, Ibrahim 14:28, Ibrahim 14:34, An-Nahl 16:72, An-Nahl 16:83, An-Nahl 16:114, Luqman 31:31, Fatir 35:3, At-Tur 52:29	نِعْمَتَ اللهِ
امرأت	7	Ali 'Imran 3:35, Yusuf 12:30, Yusuf 12:51, Al-Qasas 28:9, At-Tahrim 66:10 (2回), At-Tahrim 66:11	امْرَاَتُ عِمْرٰنَ
سنت	5	Al-Anfal 8:38, Fatir 35:43 (3回), Ghafir 40:85	سُنَّتُ الْاَوَّلِيْنَ
لعنت	2	Ali 'Imran 3:61, An-Nur 24:7	لَعْنَتَ اللهِ
معصيت	2	Al-Mujadila 58:8, Al-Mujadila 58:9	وَمَعْصِيَتِ الرَّسُوْلِ ۗ
شجرت	1	Ad-Dukhan 44:43	شَجَرَتَ الزَّقُّوْمِ
قرت	1	Al-Qasas 28:9	قُرَّتُ عَيْنٍ
جنت	1	Al-Waqi'ah 56:89	وَجَنَّتُ نَعِيْمٍ

語	箇所	場所	例
فطرت	1	Ar-Rum 30:30	فِطْرَتَ اللّٰهِ
بقيت	1	Hud 11:86	بَقِيَّتُ اللّٰهِ
ابنت	1	At-Tahrim 66:12	ابْنَتَ عِمْرٰنَ
كلمت	1	Al-A'raf 7:137	كَلِمَتُ رَبِّكَ

複数形で読む者と単数形で読む者がいる語はTaで書かれます。詩人が言うとおりで、例えば﴿كَلِمَتُ رَبِّكَ﴾ (Al-An'am 6:115)や﴿اٰيٰتٌ﴾ (Yusuf 12:7)です。

規則のまとめ

ムスハフで開いたTaで書かれた女性形のTaでは、ハフスはTaで止まります。Ta' Marbutahで書かれたものではHa'で止まります。

典拠: Ibn al-Jazari, *al-Muqaddimah al-Jazariyyah*, 詩句 94 から 100; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الوقف على مرسوم الخط، هاء التأنيث; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: هاء التأنيث المرسومة تاء.

章 21

インド・パキスタン版ムスハフの記号

Dabt (الضَّبْط)とは、文字に付けて母音と規則を示す記号の体系です。インド・パキスタン版には独自の約束があり、それを理解すればムスハフそのものから多くの規則を読み取れます。

記号	意味	例
文字の上のスクーン（ジャズム）	その文字は無音。すべての無音のNunに書かれ、規則は次の文字で判断する	﴿اَنْعَمْتَ﴾ (Al-Fatihah 1:7) ﴿مِنْ قَبْلُ﴾ (Al-Baqarah 2:25)
無音の文字の次の文字に付くシャッダ	***Idgham*** (الإِدْغَام)	﴿مِنْ رَّبِّهِمْ﴾ (Al-Baqarah 2:5) ﴿مَنْ يَّقُوْلُ﴾ (Al-Baqarah 2:8)
小さなMim	***Iqlab*** (الإِقْلَاب)	﴿مِنْۢ بَعْدِ﴾ (Al-Baqarah 2:27)
小さな縦のAlif	発音されるが書かれないマッドのAlif	﴿مٰلِكِ﴾ (Al-Fatihah 1:4)
逆さのダンマ	代名詞のHa'のWawによるSilah	﴿اِنَّهٗ هُوَ﴾ (Al-Isra 17:1)
縦のカスラ	代名詞のHa'のYaによるSilah	﴿مِيْثَاقِهٖ ۖ﴾ (Al-Baqarah 2:27)
マッド記号	自然な長さより長いマッド。インド・パキスタン版の中には、Munfasilに小さなマッド記号、MuttasilとLazimに大きな記号を書くものもありますが、この版ではすべてに一つの記号を用いています	﴿الضَّآلِّيْنَ﴾ (Al-Fatihah 1:7) ﴿بِمَآ اُنْزِلَ﴾ (Al-Baqarah 2:4)
小さなNun	書記上は省かれているが発音されるNun	﴿نُّجِّ﴾ (Al-Anbya 21:88)
母音も記号もない文字	付加された文字で、発音しない	﴿عَصَوْا وَّكَانُوْا﴾ (Al-Baqarah 2:61)

典拠: Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: علامات الضبط; Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: باب الوقف على مرسوم الخط.

章 22

ハフスのリワーヤにおける特別な語

シャーティビーヤ経路によるハフス・アン・アースィムのリワーヤで特別な規則を持つ箇所を、復習しやすいよう一つの表にまとめたものです。多くはそれぞれの章で説明しました。

箇所	ハフスの規則
﴿عِوَجًا﴾ (Al-Kahf 18:1) ﴿قَيِّمًا﴾ (Al-Kahf 18:2)	*'iwaja*のAlifで、息継ぎなしの軽い休止
﴿مِنْ مَّرْقَدِنَاۜ﴾ (Ya-Sin 36:52)	*marqadina*のAlifで休止し、次に*hadha*
﴿مَنْ ۜ رَاقٍ﴾ (Al-Qiyamah 75:27)	Nunで休止するので同化しない
﴿بَلْ ۜ رَانَ﴾ (Al-Mutaffifin 83:14)	Lamで休止するので同化しない
﴿مَجْرٖىهَا﴾ (Hud 11:41)	大***Imalah*** (الإِمَالَة)：ファトハはカスラ寄りに、AlifはYa寄りに傾き、Ra'は軽い
﴿ءَاَعْجَمِيٌّ ؕ ءَاَعْجَمِيٌّ﴾ (Fussilat 41:44)	二つ目のHamzahの***Tashil*** (التَّسْهِيل)（HamzahとAlifの中間）
﴿لَا تَاْمَنَّا﴾ (Yusuf 12:11)	好まれる方法は***Ishmam*** (الإِشْمَام)（唇を丸める）を伴うNunのNunへの同化、または***Rawm*** (الرَّوْم)を伴うIzhar
﴿مِنْ ضُ۬عْفٍ﴾ (Ar-Rum 30:54)	三か所すべてで、好まれるのはDadのファトハ、またはダンマ
﴿بَصْۜطَةً﴾ (Al-Baqarah 2:245) ﴿وَيَبْصُ۬طُ﴾ (Al-A'raf 7:69)	Sinのみ
﴿الْمُصَيْطِرُوْنَ﴾ (At-Tur 52:37)	SadまたはSin。Sadが好まれる
﴿بِمُصَيْطِرٍ﴾ (Al-Ghashiyah 88:22)	Sadのみ
﴿هَلَكَ﴾ (Al-Haqqah 69:28) ﴿مَالِيَهْ﴾ (Al-Haqqah 69:29)	続けて読むとき：Izharを伴うSakt、またはIdgham
﴿الٓمٓ ۝١﴾ (Ali 'Imran 3:1) ﴿اللّٰهُ﴾ (Ali 'Imran 3:2)	続けて読むとき：Mimを6拍、または2拍
﴿كٓهٰيٰعٓصٓ ۝١﴾ (Maryam 19:1) ﴿عٓسٓقٓ ۝٢﴾ (Ash-Shuraa 42:2)	'Ayn：4拍または6拍；6拍が優先されます

箇所	ハフスの規則
﴿يٰسٓ ①﴾ (Ya-Sin 36:1) ﴿وَالْقُرْاٰنِ﴾ (Ya-Sin 36:2) ﴿نٓ وَالْقَلَمِ﴾ (Al-Qalam 68:1)	Wawの前の無音のNunのIzhar
﴿ءٰٓالذَّكَرَيْنِ﴾ (Al-An'am 6:143) ﴿آٰلْـٰٔنَ﴾ (Yunus 10:51) ﴿قُلْ آٰللّٰهُ﴾ (Yunus 10:59)	Hamzat al-Waslを6拍のAlifに変える、または軽くする
﴿ارْكَبْ مَّعَنَا﴾ (Hud 11:42) ﴿يَلْهَثْ ۚ ذٰلِكَ﴾ (Al-A'raf 7:176)	BaをMimに、ThaをDhalに同化
﴿نَخْلُقكُّم﴾ (Al-Mursalat 77:20)	好まれる完全な同化、または不完全な同化
﴿كُلُّ فِرْقٍ﴾ (Ash-Shu'ara 26:63)	Ra'を重く、または軽く
﴿اٰتٰىنِۦَ اللّٰهُ﴾ (An-Naml 27:36)	停止時：無音のYaを付けるか付けないか
﴿سَلٰسِلَا۟﴾ (Al-Insan 76:4)	停止時：Alifを付けるかスクーンか
﴿يَرْضَهُ لَكُمْ ۗ﴾ (Az-Zumar 39:7)	Ha'にダンマ、Silahなし
﴿فِيْهٖ مُهَانًا﴾ (Al-Furqan 25:69)	前の文字が無音でもHa'のSilahがある

補足

インド・パキスタン版のムスハフでは、﴿مِنْ ضَعْفٍ﴾ (Ar-Rum 30:54)はDadにダンマが付き、その上に小さな記号があります。シャーティビーヤ経由のハフスではファトハが優先され、ダンマも許されます。﴿الْمُصَيْطِرُوْنَ﴾ (At-Tur 52:37)と﴿بِمُصَيْطِرٍ﴾ (Al-Ghashiyah 88:22)のSadには同じ小さなSinがありますが、規則は異なります。トゥール章ではSadとSinの両方（Sadが優先）、ガーシヤ章ではSadのみです。「عوجا」のサクタの記号はここで使うデジタル本文には現れませんが、サクタは行います。﴿لَا تَأْمَنَّا﴾ (Yusuf 12:11)と﴿ءَاٰيٰتُهٗ ۗ ءَاَعْجَمِيٌّ﴾ (Fussilat 41:44)には、表のとおりイシュマームとタスヒールを示す小さな記号があります。

典拠: Ibn al-Jazari, *an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*: فرش الحروف في مواضعها من الكتاب; Al-Marsafi, *Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*: الكلمات الخاصة برواية حفص.

付録1：アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤの本文

暗記と復習のための詩の全文で、一般的な数え方による109句です。見出しは詩の一部ではなく、区分のために加えたものです。写本によって語句がわずかに異なる句がいくつかあります。詩人自身は107句と数えています（«وأبياتها قاف وزاي في العدد»）。一般的な数え方では結びの2句が加わります。

المقدمة

١ يَقُولُ رَاجِي عَفْوِ رَبٍّ سَامِعِ مُحَمَّدُ بْنُ الْجَزَرِيِّ الشَّافِعِي

٢ اَلْحَمْدُ لِلَّهِ وَصَلَّى اللَّهُ عَلَى نَبِيِّهِ وَمُصْطَفَاهُ

٣ مُحَمَّدٍ وَآلِهِ وَصَحْبِهِ وَمُقْرِئِ الْقُرْآنِ مَعْ مُحِبِّهِ

٤ وَبَعْدُ إِنَّ هَذِهِ مُقَدِّمَهْ فِيمَا عَلَى قَارِئِهِ أَنْ يَعْلَمَهْ

٥ إِذْ وَاجِبٌ عَلَيْهِمُ مُحَتَّمُ قَبْلَ الشُّرُوعِ أَوَّلًا أَنْ يَعْلَمُوا

٦ مَخَارِجَ الْحُرُوفِ وَالصِّفَاتِ لِيَلْفِظُوا بِأَفْصَحِ اللُّغَاتِ

٧ مُحَرِّرِي التَّجْوِيدِ وَالْمَوَاقِفِ وَمَا الَّذِي رُسِمَ فِي الْمَصَاحِفِ

٨ مِنْ كُلِّ مَقْطُوعٍ وَمَوْصُولٍ بِهَا وَتَاءِ أُنْثَى لَمْ تَكُنْ تُكْتَبْ بِهَا

باب مخارج الحروف

٩ مَخَارِجُ الْحُرُوفِ سَبْعَةَ عَشَرْ عَلَى الَّذِي يَخْتَارُهُ مَنِ اخْتَبَرْ

١٠ فَأَلِفُ الْجَوْفِ وَأُخْتَاهَا وَهِي حُرُوفُ مَدٍّ لِلْهَوَاءِ تَنْتَهِي

١١ ثُمَّ لِأَقْصَى الْحَلْقِ هَمْزٌ هَاءُ ثُمَّ لِوَسْطِهِ فَعَيْنٌ حَاءُ

١٢ أَدْنَاهُ غَيْنٌ خَاؤُهَا وَالْقَافُ أَقْصَى اللِّسَانِ فَوْقُ ثُمَّ الْكَافُ

١٣ أَسْفَلُ وَالْوَسْطُ لِجِيمِ الشِّينُ يَا وَالضَّادُ مِنْ حَافَتِهِ إِذْ وَلِيَا

١٤ الَاضْرَاسَ مِنْ أَيْسَرَ أَوْ يُمْنَاهَا وَاللَّامُ أَدْنَاهَا لِمُنْتَهَاهَا

١٥ وَالنُّونُ مِنْ طَرَفِهِ تَحْتُ اجْعَلُوا وَالرَّا يُدَانِيهِ لِظَهْرٍ أَدْخَلُ

١٦ وَالطَّاءُ وَالدَّالُ وَتَا مِنْهُ وَمِنْ عُلْيَا الثَّنَايَا وَالصَّفِيرُ مُسْتَكِنْ

١٧ مِنْهُ وَمِنْ فَوْقِ الثَّنَايَا السُّفْلَى وَالظَّاءُ وَالذَّالُ وَثَا لِلْعُلْيَا
١٨ مِنْ طَرَفَيْهِمَا وَمِنْ بَطْنِ الشَّفَهْ فَالْفَا مَعَ اطْرَافِ الثَّنَايَا الْمُشْرِفَهْ
١٩ لِلشَّفَتَيْنِ الْوَاوُ بَاءٌ مِيمُ وَغُنَّةٌ مَخْرَجُهَا الْخَيْشُومُ

باب صفات الحروف

٢٠ صِفَاتُهَا جَهْرٌ وَرِخْوٌ مُسْتَفِلْ مُنْفَتِحٌ مُصْمَتَةٌ وَالضِّدَّ قُلْ
٢١ مَهْمُوسُهَا فَحَّثَهُ شَخْصٌ سَكَتْ شَدِيدُهَا لَفْظُ أَجِدْ قَطٍ بَكَتْ
٢٢ وَبَيْنَ رِخْوٍ وَالشَّدِيدِ لِنْ عُمَرْ وَسَبْعُ عُلْوٍ خُصَّ ضَغْطٍ قِظْ حَصَرْ
٢٣ وَصَادُ ضَادٌ طَاءُ ظَاءٌ مُطْبَقَهْ وَفِرَّ مِنْ لُبِّ الْحُرُوفُ الْمُذْلَقَهْ
٢٤ صَفِيرُهَا صَادٌ وَزَايٌ سِينُ قَلْقَلَةٌ قُطْبُ جَدٍ وَاللِّينُ
٢٥ وَاوٌ وَيَاءٌ سُكِّنَا وَانْفَتَحَا قَبْلَهُمَا وَالِانْحِرَافُ صُحِّحَا
٢٦ فِي اللَّامِ وَالرَّا وَبِتَكْرِيرٍ جُعِلْ وَلِلتَّفَشِّي الشِّينُ ضَادًا اسْتَطِلْ

باب التجويد

٢٧ وَالْأَخْذُ بِالتَّجْوِيدِ حَتْمٌ لَازِمُ مَنْ لَمْ يُجَوِّدِ الْقُرَانَ آثِمُ
٢٨ لِأَنَّهُ بِهِ الْإِلَهُ أَنْزَلَا وَهَكَذَا مِنْهُ إِلَيْنَا وَصَلَا
٢٩ وَهُوَ أَيْضًا حِلْيَةُ التِّلَاوَةِ وَزِينَةُ الْأَدَاءِ وَالْقِرَاءَةِ
٣٠ وَهُوَ إِعْطَاءُ الْحُرُوفِ حَقَّهَا مِنْ صِفَةٍ لَهَا وَمُسْتَحَقَّهَا
٣١ وَرَدُّ كُلِّ وَاحِدٍ لِأَصْلِهِ وَاللَّفْظُ فِي نَظِيرِهِ كَمِثْلِهِ
٣٢ مُكَمَّلًا مِنْ غَيْرِ مَا تَكَلُّفِ بِاللُّطْفِ فِي النُّطْقِ بِلَا تَعَسُّفِ
٣٣ وَلَيْسَ بَيْنَهُ وَبَيْنَ تَرْكِهِ إِلَّا رِيَاضَةُ امْرِئٍ بِفَكِّهِ

باب الترقيق والتفخيم وبيان بعض الحروف

٣٤ فَرَقِّقَنْ مُسْتَفِلًا مِنْ أَحْرُفِ وَحَاذِرَنْ تَفْخِيمَ لَفْظِ الْأَلِفِ
٣٥ وَهَمْزَ الْحَمْدُ أَعُوذُ اهْدِنَا اللَّهُ ثُمَّ لَامَ لِلَّهِ لَنَا
٣٦ وَلْيَتَلَطَّفْ وَعَلَى اللَّهِ وَلَا الضْ وَالْمِيمَ مِنْ مُخْمَصَةٍ وَمِنْ مَرَضْ
٣٧ وَبَاءَ بَرْقٍ بَاطِلٍ بِهِمْ بِذِي وَاحْرِصْ عَلَى الشِّدَّةِ وَالْجَهْرِ الَّذِي

٣٨ فِيهَا وَفِي الْجِيمِ كَحُبِّ الصَّبِرْ رَبْوَةٍ اجْتُثَّتْ وَحَجِّ الْفَجْرِ
٣٩ وَبَيِّنَنْ مُقَلْقَلًا إِنْ سَكَنَا وَإِنْ يَكُنْ فِي الْوَقْفِ كَانَ أَبْيَنَا
٤٠ وَحَاءَ حَصْحَصَ أَحَطتُّ الْحَقُّ وَسِينَ مُسْتَقِيمِ يَسْطُو يَسْقُو

باب الراءات

٤١ وَرَقِّقِ الرَّاءَ إِذَا مَا كُسِرَتْ كَذَاكَ بَعْدَ الْكَسْرِ حَيْثُ سَكَنَتْ
٤٢ إِنْ لَمْ تَكُنْ مِنْ قَبْلِ حَرْفِ اسْتِعْلَا أَوْ كَانَتِ الْكَسْرَةُ لَيْسَتْ أَصْلَا
٤٣ وَاخْلُفْ فِي فِرْقٍ لِكَسْرٍ يُوجَدُ وَأَخْفِ تَكْرِيرًا إِذَا تُشَدَّدُ

باب اللامات وأحكام متفرقة

٤٤ وَفَخِّمِ اللَّامَ مِنِ اسْمِ اللَّهِ عَنْ فَتْحٍ اوْ ضَمٍّ كَعَبْدُ اللَّهِ
٤٥ وَحَرْفَ الِاسْتِعْلَاءِ فَخِّمْ وَاخْصُصَا الِاطْبَاقَ أَقْوَى نَحْوُ قَالَ وَالْعَصَا
٤٦ وَبَيِّنِ الْإِطْبَاقَ مِنْ أَحَطتُّ مَعْ بَسَطتَّ وَاخْلُفْ بِخَلْقُكُّمْ وَقَعْ
٤٧ وَاحْرِصْ عَلَى السُّكُونِ فِي جَعَلْنَا أَنْعَمْتَ وَالْمَغْضُوبِ مَعْ ضَلَلْنَا
٤٨ وَخَلِّصِ انْفِتَاحَ مَحْذُورًا عَسَى خَوْفَ اشْتِبَاهِهِ بِمَحْظُورًا عَصَى
٤٩ وَرَاعِ شِدَّةً بِكَافٍ وَبِتَا كَشِرْكِكُمْ وَتَتَوَفَّى فِتْنَتَا
٥٠ وَأَوَّلَيْ مِثْلٍ وَجِنْسٍ إِنْ سَكَنْ أَدْغِمْ كَقُلْ رَبِّ وَبَلْ لَا وَأَبِنْ
٥١ فِي يَوْمِ مَعْ قَالُوا وَهُمْ وَقُلْ نَعَمْ سَبِّحْهُ لَا تَزِغْ قُلُوبَ فَالْتَقَمْ

باب الضاد والظاء

٥٢ وَالضَّادَ بِاسْتِطَالَةٍ وَمَخْرَجِ مَيِّزْ مِنَ الظَّاءِ وَكُلُّهَا تَجِي
٥٣ فِي الظَّعْنِ ظِلِّ الظُّهْرِ عُظْمِ الْحِفْظِ أَيْقِظْ وَأَنْظِرْ عَظْمِ ظَهْرِ اللَّفْظِ
٥٤ ظَاهِرْ لَظَى شُوَاظُ كَظْمٍ ظَلَمَا اغْلُظْ ظَلَامَ ظُفُرٍ انْتَظِرْ ظَمَا
٥٥ أَظْفَرَ ظَنًّا كَيْفَ جَا وَعِظْ سِوَى عِضِينَ ظَلَّ النَّحْلِ زُخْرُفٍ سَوَا
٥٦ وَظَلْتَ ظَلْتُمْ وَبِرُومٍ ظَلُّوا كَالْحِجْرِ ظَلَّتْ شُعَرَا نَظَلُّ
٥٧ يَظْلَلْنَ مَحْظُورًا مَعَ الْمُحْتَظِرِ وَكُنْتَ فَظًّا وَجَمِيعِ النَّظَرِ
٥٨ إِلَّا بِوَيْلٌ هَلْ وَأُولَى نَاضِرَهْ وَالْغَيْظِ لَا الرَّعْدِ وَهُودٍ قَاصِرَهْ

٥٩ وَالْحَظُّ لَا الْحَضُّ عَلَى الطَّعَامِ وَفِي ظَنِينٍ الْخِلَافُ سَامِي
٦٠ وَإِنْ تَلَاقَيَا الْبَيَانُ لَازِمُ أَنْقَضَ ظَهْرَكَ يَعَضُّ الظَّالِمُ
٦١ وَاضْطُرَّ مَعْ وَعَظْتَ مَعْ أَفَضْتُمُ وَصَفِّ هَا جِبَاهُهُمْ عَلَيْهِمُ

باب النون والميم المشددتين والميم الساكنة

٦٢ وَأَظْهِرِ الْغُنَّةَ مِنْ نُونٍ وَمِنْ مِيمٍ إِذَا مَا شُدِّدَا وَأَخْفِيَنْ
٦٣ الْمِيمَ إِنْ تَسْكُنْ بِغُنَّةٍ لَدَى بَاءٍ عَلَى الْمُخْتَارِ مِنْ أَهْلِ الْأَدَا
٦٤ وَأَظْهِرَنْهَا عِنْدَ بَاقِي الْأَحْرُفِ وَاحْذَرْ لَدَى وَاوٍ وَفَا أَنْ تَخْتَفِي

باب حكم التنوين والنون الساكنة

٦٥ وَحُكْمُ تَنْوِينٍ وَنُونٍ يُلْفَى إِظْهَارٌ ادْغَامٌ وَقَلْبٌ إِخْفَا
٦٦ فَعِنْدَ حَرْفِ الْحَلْقِ أَظْهِرْ وَادَّغِمْ فِي اللَّامِ وَالرَّا لَا بِغُنَّةٍ لَزِمْ
٦٧ وَأَدْغِمَنْ بِغُنَّةٍ فِي يُومِنُ إِلَّا بِكَلِمَةٍ كَدُنْيَا عَنْوَنُوا
٦٨ وَالْقَلْبُ عِنْدَ الْبَا بِغُنَّةٍ كَذَا الِاخْفَا لَدَى بَاقِي الْحُرُوفِ أُخِذَا

باب المد والقصر

٦٩ وَالْمَدُّ لَازِمٌ وَوَاجِبٌ أَتَى وَجَائِزٌ وَهْوَ وَقَصْرٌ ثَبَتَا
٧٠ فَلَازِمٌ إِنْ جَاءَ بَعْدَ حَرْفِ مَدّْ سَاكِنُ حَالَيْنِ وَبِالطُّولِ يُمَدّْ
٧١ وَوَاجِبٌ إِنْ جَاءَ قَبْلَ هَمْزَةِ مُتَّصِلًا إِنْ جُمِعَا بِكَلِمَةِ
٧٢ وَجَائِزٌ إِذَا أَتَى مُنْفَصِلَا أَوْ عَرَضَ السُّكُونُ وَقْفًا مُسْجَلَا

باب معرفة الوقوف

٧٣ وَبَعْدَ تَجْوِيدِكَ لِلْحُرُوفِ لَا بُدَّ مِنْ مَعْرِفَةِ الْوُقُوفِ
٧٤ وَالِابْتِدَاءِ وَهْيَ تُقْسَمُ إِذَنْ ثَلَاثَةٌ تَامٌّ وَكَافٍ وَحَسَنْ
٧٥ وَهْيَ لِمَا تَمَّ فَإِنْ لَمْ يُوجَدِ تَعَلُّقٌ أَوْ كَانَ مَعْنًى فَابْتَدِي
٧٦ فَالتَّامُّ فَالْكَافِي وَلَفْظًا فَامْنَعَنْ إِلَّا رُؤُوسَ الْآيِ جَوِّزْ فَالْحَسَنْ
٧٧ وَغَيْرُ مَا تَمَّ قَبِيحٌ وَلَهُ يُوقَفُ مُضْطَرًّا وَيُبْدَا قَبْلَهُ
٧٨ وَلَيْسَ فِي الْقُرْآنِ مِنْ وَقْفٍ وَجَبْ وَلَا حَرَامٍ غَيْرَ مَا لَهُ سَبَبْ

باب المقطوع والموصول

٧٩ وَاعْرِفْ لِمَقْطُوعٍ وَمَوْصُولٍ وَتَا فِي مُصْحَفِ الْإِمَامِ فِيمَا قَدْ أَتَى

٨٠ فَاقْطَعْ بِعَشْرِ كَلِمَاتٍ أَنْ لَا مَعْ مَلْجَإٍ وَلَا إِلَهَ إِلَّا

٨١ وَتَعْبُدُوا يَاسِينَ ثَانِي هُودَ لَا يُشْرِكْنَ تُشْرِكْ يَدْخُلَنْ تَعْلُوا عَلَى

٨٢ أَنْ لَا يَقُولُوا لَا أَقُولَ إِنْ مَا بِالرَّعْدِ وَالْمَفْتُوحَ صِلْ وَعَنْ مَا

٨٣ نُهُوا اقْطَعُوا مِنْ مَا بِرُومٍ وَالنِّسَا خُلْفُ الْمُنَافِقِينَ أَمْ مَنْ أَسَّسَا

٨٤ فُصِّلَتِ النِّسَا وَذِبْحٍ حَيْثُ مَا وَأَنْ لَمِ الْمَفْتُوحَ كَسْرُ إِنَّ مَا

٨٥ الْأَنْعَامَ وَالْمَفْتُوحَ يَدْعُونَ مَعَا وَخُلْفُ الْأَنْفَالِ وَنَحْلٍ وَقَعَا

٨٦ وَكُلِّ مَا سَأَلْتُمُوهُ وَاخْتُلِفْ رُدُّوا كَذَا قُلْ بِئْسَمَا وَالْوَصْلَ صِفْ

٨٧ خَلَفْتُمُونِي وَاشْتَرَوْا فِي مَا اقْطَعَا أُوحِيَ أَفَضْتُمْ اشْتَهَتْ يَبْلُو مَعَا

٨٨ ثَانِي فَعَلْنَ وَقَعَتْ رُومٌ كِلَا تَنْزِيلُ شُعَرَا وَغَيْرُهَا صِلَا

٨٩ فَأَيْنَمَا كَالنَّحْلِ صِلْ وَمُخْتَلِفْ فِي الشُّعَرَا الْأَحْزَابِ وَالنِّسَا وُصِفْ

٩٠ وَصِلْ فَإِلَّمْ هُودَ أَلَّنْ نَجْعَلَا نَجْمَعَ كَيْلَا تَحْزَنُوا تَأْسَوْا عَلَى

٩١ حَجٌّ عَلَيْكَ حَرَجٌ وَقَطْعُهُمْ عَنْ مَنْ يَشَاءُ مَنْ تَوَلَّى يَوْمَ هُمْ

٩٢ وَمَالِ هَذَا وَالَّذِينَ هَؤُلَا تَحِينَ فِي الْإِمَامِ صِلْ وَوُهِّلَا

٩٣ وَوَزَنُوهُمْ وَكَالُوهُمْ صِلِ كَذَا مِنَ الْ وَيَا وَهَا لَا تَفْصِلِ

باب التاءات

٩٤ وَرَحْمَتُ الزُّخْرُفِ بِالتَّا زَبَرَهْ الْأَعْرَافِ رُومٍ هُودٍ كَافِ الْبَقَرَهْ

٩٥ نِعْمَتَهَا ثَلَاثُ نَحْلٍ إِبْرَهَمْ مَعًا أَخِيرَاتٌ عُقُودُ الثَّانِ هَمّْ

٩٦ لُقْمَانُ ثُمَّ فَاطِرٌ كَالطُّورِ عِمْرَانَ لَعْنَتَ بِهَا وَالنُّورِ

٩٧ وَامْرَأَتٌ يُوسُفَ عِمْرَانَ الْقَصَصْ تَحْرِيمَ مَعْصِيَتْ بِقَدْ سَمِعْ يُخَصّْ

٩٨ شَجَرَتَ الدُّخَانِ سُنَّتْ فَاطِرِ كُلًّا وَالْأَنْفَالِ وَحَرْفِ غَافِرِ

٩٩ قُرَّتُ عَيْنٍ جَنَّتٌ فِي وَقَعَتْ فِطْرَتَ بَقِيَّتْ وَابْنَتْ وَكَلِمَتْ

١٠٠ أَوْسَطَ الْأَعْرَافِ وَكُلُّ مَا اخْتُلِفْ جَمْعًا وَفَرْدًا فِيهِ بِالتَّاءِ عُرِفْ

باب همز الوصل

١٠١ وَابْدَأْ بِهَمْزِ الْوَصْلِ مِنْ فِعْلٍ بِضَمّْ إِنْ كَانَ ثَالِثٌ مِنَ الْفِعْلِ يُضَمّْ
١٠٢ وَاكْسِرْهُ حَالَ الْكَسْرِ وَالْفَتْحِ وَفِي الَاسْمَاءِ غَيْرَ اللَّامِ كَسْرُهَا وَفِي
١٠٣ ابْنٍ مَعَ ابْنَةِ امْرِئٍ وَاثْنَيْنِ وَامْرَأَةٍ وَاسْمٍ مَعَ اثْنَتَيْنِ

باب الوقف على أواخر الكلم

١٠٤ وَحَاذِرِ الْوَقْفَ بِكُلِّ الْحَرَكَهْ إِلَّا إِذَا رُمْتَ فَبَعْضُ الْحَرَكَهْ
١٠٥ إِلَّا بِفَتْحٍ أَوْ بِنَصْبٍ وَأَشِمّْ إِشَارَةً بِالضَّمِّ فِي رَفْعٍ وَضَمّْ

الخاتمة

١٠٦ وَقَدْ تَقَضَّى نَظْمِيَ الْمُقَدِّمَهْ مِنِّي لِقَارِئِ الْقُرْآنِ تَقْدِمَهْ
١٠٧ أَبْيَاتُهَا قَافٌ وَزَايٌ فِي الْعَدَدْ مَنْ يُحْسِنِ التَّجْوِيدَ يَظْفَرْ بِالرَّشَدْ
١٠٨ وَالْحَمْدُ لِلَّهِ لَهَا خِتَامُ ثُمَّ الصَّلَاةُ بَعْدُ وَالسَّلَامُ
١٠٩ عَلَى النَّبِيِّ الْمُصْطَفَى وَآلِهِ وَصَحْبِهِ وَتَابِعِي مِنْوَالِهِ

付録2：用語集

本書で用いたアラビア語の用語と、この版で用いたラテン文字表記。各版を互いに照合できるようにするためのものです。

アラビア語の用語	翻字
الأَضْرَاس	Al-Adras
اللِّثَة	Al-Lithah
المُقَدِّمَة الجَزَرِيَّة	Al-Muqaddimah al-Jazariyyah
الشَّاطِبِيَّة	Ash-Shatibiyyah
الثَّنَايَا	Ath-Thanaya
البَسْمَلَة	Basmalah
الضَّبْط	Dabt
فَوَاتِح السُّوَر	Fawatih as-Suwar
الغُنَّة	Ghunnah
هَاء الكِنَايَة	Ha' al-Kinayah
الحَدْر	Hadr
حَفْص عَنْ عَاصِم	Hafs 'an 'Asim
الحَلْق	Halq
الهَمْس	Hams
هَمْزَة القَطْع	Hamzat al-Qat'
هَمْزَة الوَصْل	Hamzat al-Wasl
الحَرَكَة	Harakah
الحَرَكَات	Harakat
حَرْف المَدّ	Harf Madd
حُرُوف الحَلْق	Huruf al-Halq
حُرُوف المَدّ	Huruf al-Madd
حُرُوف القَلْقَلَة	Huruf al-Qalqalah
الإِبْدَال	Ibdal
الابْتِدَاء	Ibtida'
الإِدْغَام	Idgham
إِدْغَام المِثْلَيْن	Idgham al-Mithlayn
الإِدْغَام بِغُنَّة	Idgham bi-Ghunnah
الإِدْغَام بِلَا غُنَّة	Idgham bila Ghunnah

アラビア語の用語	翻字
الإِدْغَام الكَامِل	Idgham Kamil
الإِدْغَام النَّاقِص	Idgham Naqis
الإِدْغَام الشَّمْسِيّ	Idgham Shamsi
الإِذْلَاق	Idhlaq
الإِخْفَاء	Ikhfa'
الإِخْفَاء الشَّفَوِيّ	Ikhfa' Shafawi
الإِمَالَة	Imalah
الانْفِتَاح	Infitah
الانْحِرَاف	Inhiraf
الإِقْلَاب	Iqlab
الإِشْبَاع	Ishba'
الإِشْمَام	Ishmam
الإِصْمَات	Ismat
الإِسْنَاد	Isnad
الاسْتِعَاذَة	Isti'adhah
الاسْتِفَال	Istifal
الاسْتِعْلَاء	Isti'la'
الاسْتِطَالَة	Istitalah
الإِطْبَاق	Itbaq
الإِظْهَار	Izhar
الإِظْهَار الحَلْقِيّ	Izhar Halqi
الإِظْهَار المُطْلَق	Izhar Mutlaq
الإِظْهَار القَمَرِيّ	Izhar Qamari
الإِظْهَار الشَّفَوِيّ	Izhar Shafawi
الجَهْر	Jahr
الجَوْف	Jawf
الكَبِير	Kabir
الخَفَاء	Khafa'

アラビア語の用語	翻字
الخَيْشُوم	Khayshum
اللَّحْن	Lahn
اللَّحْن الجَلِيّ	Lahn Jali
اللَّحْن الخَفِيّ	Lahn Khafi
لَام التَّعْرِيف	Lam at-Ta'rif
لَام لَفْظ الجَلَالَة	Lam Lafz al-Jalalah
اللَّازِم الحَرْفِيّ المُخَفَّف	Lazim Harfi Mukhaffaf
اللَّازِم الحَرْفِيّ المُثَقَّل	Lazim Harfi Muthaqqal
اللَّازِم الكَلِمِيّ المُخَفَّف	Lazim Kalimi Mukhaffaf
اللَّازِم الكَلِمِيّ المُثَقَّل	Lazim Kalimi Muthaqqal
اللِّين	Lin
اللِّسَان	Lisan
المَدّ	Madd
مَدّ البَدَل	Madd al-Badal
مَدّ الفَرْق	Madd al-Farq
مَدّ العِوَض	Madd al-'Iwad
مَدّ اللِّين	Madd al-Lin
المَدّ العَارِض لِلسُّكُون	Madd 'Arid li-s-Sukun
المَدّ الأَصْلِيّ	Madd Asli
مَدّ التَّمْكِين	Madd at-Tamkin
المَدّ الفَرْعِيّ	Madd Far'i
المَدّ اللَّازِم	Madd Lazim
المَدّ المُنْفَصِل	Madd Munfasil
المَدّ المُتَّصِل	Madd Muttasil
المَدّ الطَّبِيعِيّ	Madd Tabi'i
المَخَارِج	Makharij
المَخْرَج	Makhraj
المَقْطُوع	Maqtu'
المَوْصُول	Mawsul
المِيم السَّاكِنَة	Mim Sakinah
المِثْلَان	Mithlayn
المُشَافَهَة	Mushafahah
المُتَبَاعِدَان	Mutaba'idayn
المُتَجَانِسَان	Mutajanisayn
المُتَقَارِبَان	Mutaqaribayn
المُطْلَق	Mutlaq
النُّون السَّاكِنَة	Nun Sakinah
القَلْقَلَة	Qalqalah
القَصْر	Qasr
القَطْع	Qat'
القِرَاءَة	Qira'ah
الرَّخَاوَة	Rakhawah
الرَّسْم العُثْمَانِيّ	Rasm 'Uthmani
الرَّوْم	Rawm
الرِّوَايَة	Riwayah
رُؤُوس الآي	Ru'us al-Ay
الصَّفِير	Safir
الصَّغِير	Saghir
السَّكْت	Sakt
الشَّدَّة	Shaddah
الشَّفَتَان	Shafatan
الشِّدَّة	Shiddah
الصِّفَة	Sifah
الصِّفَات	Sifat
الصِّفَات العَارِضَة	Sifat 'Aridah
الصِّفَات اللَّازِمَة	Sifat Lazimah
الصِّلَة	Silah
الصِّلَة الكُبْرَى	Silah Kubra
الصِّلَة الصُّغْرَى	Silah Sughra
السُّكُون	Sukun
التَّاء المَفْتُوحَة	Ta' Maftuhah
التَّاء المَرْبُوطَة	Ta' Marbutah
التَّدْوِير	Tadwir
التَّفَشِّي	Tafashshi
التَّفْخِيم	Tafkhim
التَّحْقِيق	Tahqiq
التَّجْوِيد	Tajweed
التَّكْرِير	Takrir

アラビア語の用語	翻字
التَّنْوِين	Tanwin
الطَّرِيق	Tariq
التَّرْقِيق	Tarqiq
التَّرْتِيل	Tartil
التَّسْهِيل	Tashil
التَّوَسُّط	Tawassut
التَّوَسُّط	Tawassut
طَيِّبَة النَّشْر	Tayyibat an-Nashr
التِّلَاوَة	Tilawah
الوَقْف	Waqf

アラビア語の用語	翻字
وَقْف المُعَانَقَة	Waqf al-Mu'anaqah
الوَقْف الحَسَن	Waqf Hasan
الوَقْف الاضْطِرَارِيّ	Waqf Idtirari
الوَقْف الاخْتِبَارِيّ	Waqf Ikhtibari
الوَقْف الاخْتِيَارِيّ	Waqf Ikhtiyari
الوَقْف الانْتِظَارِيّ	Waqf Intizari
الوَقْف الكَافِي	Waqf Kafi
الوَقْف القَبِيح	Waqf Qabih
الوَقْف التَّامّ	Waqf Tamm
الوَصْل	Wasl

付録3：参考文献

- **イブン・アル＝ジャザリー**、ムハンマド・イブン・ムハンマド（ヒジュラ暦833年没）：*al-Muqaddimah fi-ma 'ala Qari' al-Quran an Ya'lamah*（アル＝ムカッディマ・アル＝ジャザリーヤ）。校訂版の一つにアイマン・ルシュディー・スワイド博士によるものがあります。
- **イブン・アル＝ジャザリー**：*an-Nashr fi al-Qira'at al-'Ashr*、アリー・ムハンマド・アッ＝ダッバーウ師校訂。他の版もあります。
- **イブン・アル＝ジャザリー**：*at-Tamhid fi 'Ilm at-Tajwid*、ガーニム・カッドゥーリー・アル＝ハマド博士校訂。
- **マッキー・イブン・アビー・ターリブ・アル＝カイスィー**（ヒジュラ暦437年没）：*ar-Ri'ayah li-Tajwid al-Qira'ah wa Tahqiq Lafz at-Tilawah*、アフマド・ハサン・ファルハート博士校訂。
- **アブドゥルファッターフ・アッ＝サイイド・アジャミー・アル＝マルサフィー**（ヒジュラ暦1409年没）：*Hidayat al-Qari ila Tajwid Kalam al-Bari*。
- **アル＝カースィム・イブン・フィッルフ・アッ＝シャーティビー**（ヒジュラ暦590年没）：*Hirz al-Amani wa Wajh at-Tahani*（アッ＝シャーティビーヤ）。
- **クルアーン本文**：ファハド国王コンプレックスのインド・パキスタン版ムスハフ（ハフスのリワーヤ）をデジタル形式で、コンプレックスのナスタアリーク体フォント（KFGQPC Nastaleeq）で組版しました。

> **補足**
>
> アッラーがこの本を有益なものとし、ひたすらご自身のためのものとしてくださるよう願います。正しい部分はアッラーからのものです。誤りを見つけられた方は、onlinequran.meを通じてお知らせください。